

小単元の指導・評価計画

単元の導入（第 1 単元オリエンテーション）

1 時間／上 P. 6～7

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	地球の写真や地球儀、地図帳を見て、調べたいと思ったことを話し合いました。 (1 時間)	○地球の写真や地球儀をもとに、気づいたことや調べたいと思ったことを発表する。 ＜気づいたこと＞ ・地球の中の日本は小さい。 ・日本は細長い。 ・日本の西には、広い大陸が続いているように見える。 ・この写真の裏側にある、大陸や海はどうなっているのかな。 ＜調べたいと思ったこと＞ ・世界の大陸や海洋はどうなっているのか。 ・日本のまわりにはどのような国があるのか。 ・人はどのあたりに住んでいるのか。 ・日本の国土に住む人たちは、どのような暮らしをしているのか。 ----- 単元のめあて 日本の国土は、地球のどこにあり、人々の暮らしは、どのようなになっているのでしょうか。	◆地球の衛星写真を見て、気づいたことを自由に発言させる。 ◆地球儀と地図の実物を見て、確認させる。 ◆地球儀と地図のそれぞれに描かれている具体的な内容については追究せず、見た目の比較にとどめる。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「日本が地球のどこにあるかや、国土の様子について関心を高めているか」を評価する。

目標

我が国の国土の様子について、世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、我が国の国土の様子を理解している。	①世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、問いを見いだし、我が国の国土の様子について考え表現している。	①我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①世界の中の日本 P. 8～9 地球の様子や地図を見て話し合い、世界の中の日本について学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○地球儀をながめて、疑問に思ったことを発言する。 ○P. 7「地球儀の見方・使い方」を参照し、地球儀の使い方を学習する。 ・緯度、経度による位置の見方、距離・方位の調べ方 ・地図と地球儀の違い ○P. 8～9の地図などで世界の主な大陸や海洋を確認する。 ・六つの大陸と三つの海洋の位置と名称 ○地図や地球儀で日本の位置を確認し、世界の広がりとの関係について気づいたことや考えたことなどを発表し、それをもとに学習問題をつくる。 ・日本はユーラシア大陸の東にあって、太平洋の西にある。 ・日本の他にどのような国々があるのかな。	◆P. 7「地球儀の見方・使い方」をもとに、地球儀の使い方を指導する。 ◆大陸や海洋の位置や形、大きさなどに着目し、地球上の大陸や海洋の広がりをつかえさせたい。 QR コンテンツ「六つの大陸・三つの海洋」も活用したい。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「日本の地理的位置や国土の構成に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「我が国の国土の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 世界の中で、日本の国土はどこにあり、どのように広がっているのでしょうか。 ○学習問題について予想し、学習計画を立て、学習の見通しをもつ。 ・世界の国々と日本 ・日本の国土の広がり ・日本の領土		
調べる	②世界の国々と日本の位置 P. 10～11 世界の主な国々と日本の位置や国旗について調べてみましょう。 (1 時間)	○P. 10～11の地図をもとに、世界の国の位置や国旗、その国の様子、日本との位置関係などについて地図帳や地球儀で調べながら、線でつないだり、国名を空欄に書き入れたりする。 (P. 10 1.～3.を参照) ○線で結んだり、書き込んだりした地図をもとに、気づいたことや思ったことを話し合う。 ・大陸だけでなく島にも国がある。 ・国旗は似ているものもあるが、それぞれ違っていて、その国の人々の歴史や願いが込められているものもある。	◆P. 10 の作業指示に従って作業をさせる。写真にも着目させ、各国の風土や文化の特色にも興味をもたせる。 ◆調べた国が、日本と比べ大きいのか小さいのか、日本とどのような位置関係にあるか、どの方位にあるかなどについてもできるだけ調べさせる。 ◆国旗については、P. 10 の「ことば」をもとに指導し、各国の国旗を確認する。 ◆QR コンテンツ「地図帳でさがそう！世界の国々」も活用し、児童に世界の主な国々への関心をもたせる。	[知技①] 教科書への書き込みやノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、世界の主な国々と日本の位置関係や、世界の国々には国旗があることを理解しているか」を評価する。
		世界の国々は、多様であり、それぞれ国旗が存在する。②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③多くの島からなる日本 P. 12～13 日本の国土は、どのような特色があるのでしょうか。 (1 時間)	○P. 12～13の地図や写真などから、日本の国の広がりや日本のまわりの国々を調べ、気づいたことを話し合う。 ・国土は、四つの大きな島と沖縄島や択捉島などの14000以上の多くの島でできている。 ・長い海岸線をもつ。 ・日本の東西南北の端は、南鳥島、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島で、約3000kmの距離がある。 ○国土の広がりについて、話し合う。 ・まわりを海に囲まれている島国 ・多くの島が南北に連なる国 日本の国土は、南鳥島、与那国島、沖ノ鳥島、択捉島を東西南北の端とし、海に囲まれた大小の島々で構成され、海をへだてて大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っている。③	◆P. 12 の作業指示に従って作業をさせる。写真にも着目させ日本の国土はどのように広がっているのか考えさせる。 ◆東西南北の端となる島に着目し、距離を測ったり、隣接する海洋・国などを地図から読み取ったりする活動を通して、島国としての国土の広がりについて考えさせたい。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「日本の周辺や海洋に囲まれ多数の島からなる日本の国土の構成について考え表現しているか」を評価する。
	④領土をめぐる問題 P. 14 日本の領土のはんいは、どのようになっているのでしょうか。 (1/2 時間)	○P. 14～15の地図や写真から、日本の領土・領海の範囲を確認する。 ・日本は、多くの島からなるため、領土よりも領海の方が広い。 ○P. 14～15の地図や写真、本文から領土の範囲をめぐる問題について理解する。 ・北方領土は、日本固有の領土である。 ・竹島は、日本固有の領土であるが、韓国が不法に占領しているため、日本は抗議を続けている。 ・尖閣諸島は、日本固有の領土である。 日本は、海に囲まれた島国であるため、広い領海をもっている。また周辺国との領土をめぐる問題がある。④-1	◆領土という「ことば」をしっかりと確認したのち、日本には領土をめぐる問題があることに気づかせたい。ただし、5年生の段階ではその解決策を考え、話し合うなどの活動には深入りせず、概要や位置等の確認にとどめる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の領土の範囲について理解しているか」を評価する。
	④表にまとめる P. 15 日本の国土の特色についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○調べてわかったことを発表し合う。 ○これまでに調べたことを、表にまとめることを通して、学習をふり返り、そこからわかる日本の国土の特色についてまとめる。 ・日本は、ユーラシア大陸の東、太平洋の西にある。 ・日本は、アメリカ合衆国やフランスなどと同じくらいの緯度にある。 ・日本は、大韓民国や中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っている。 ・日本は、海に囲まれ多くの島からなる。 ・広い領海をもっている。 日本は、北半球およびユーラシア大陸の東に位置し、大韓民国、中華人民共和国、ロシア連邦などと隣り合っており、海に囲まれた大小の島々から構成され、広い領海をもつ島国である。④-2	◆世界の中で、日本の位置や領土はどのように広がっているか、表にまとめ自分の言葉で説明させる。 ◆表にまとめる際は、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を使い、一人一台端末によってまとめる方法も考えられる。	[知技②] ノートの記述内容や作成した表の内容から、「日本の国土の地理的位置や構成、領土の範囲などの日本の国土の様子について理解しているか」を評価する。

1－②国土の地形の特色

3 時間／上 P. 16～21

目標

我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国土の地形の様子を捉え、国土の地形の特色を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の地形について、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の地形の様子を理解している。	①国土の地形に着目して、問いを見だし、国土の地形の様子について考え表現している。	①我が国の国土の地形の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、国土の地形の概要を理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①空から見た国土 P. 16～17 国土の地形について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○P. 16～17の写真をもとに日本の地形の特色について気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・山の上の方まで人が住んでいる土地もある。 ・山もあれば平らな土地もある。 ・空から見る様子には、場所によって違いがある。	◆景観写真をじっくり読ませ、山地、平地、川、海岸、火山などの地形に関する事象に着目させる。 ◆写真にある河川にも着目させておく。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「地形に関する事象に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 国土の地形には、どのような特色があるのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 ・山地や平地など、国土の地形の様子や広がり ・川や湖の様子や広がり	◆QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、国土の地形に関心をもたせる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②国土のさまざまな地形 P. 18～19 山地や平地の特色や広がり、どのようになっているのでしょうか。 (1 時間)	○P. 19の資料5の地図を読み取る活動を通して、国土の山地や平地について気づいたことを発表する。 ・山脈、高地、平野など様々な地形がある。 ○P. 19の資料4をもとに地形の種類とP. 18の資料1、2、3の写真に関連付け、その特徴を読み取る。 ・飛騨山脈は山が連なっている。 ・松本盆地のまわりには山が見える。 ・庄内平野には最上川が流れ、遠くに山が見える。 ○P. 19の資料4、5、6をもとに、国土の地形の特色をまとめる。 ・山地や山脈と呼ばれる地形は、四つの島の主に中央にある。 ・火山も多い。 ・国土の4分の3は山地で、平地が少ない。 日本の国土は、山地が多く、火山も多い。山地は南北に背骨のように連なり、平地は少ない。②	◆資料4で地形の種類、呼び方、その特色を理解させる。それを視点として、もう一度資料5を見せ、それぞれの特徴的な地形が、国土のどのあたりにあるか読み取らせる。 ◆地図帳でも確認させ、そこからわかったことを発表させる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地理的な位置や広がりから国土の地形の様子について理解しているか」を評価する。
	③日本の川や湖の特色 P. 20 日本の川や湖には、どのような特色があるのでしょうか。 (1/2 時間)	○P. 20資料1、2、4や地図帳を使い、児童にとって身近な河川の上流や下流（河口含む）、湖について確認する。 ・河川の上流は山地で、下流になると平野を流れている。 ・山地や平地に湖が見られる。 ○P. 20資料3と5、6に関連付け、日本の川と湖の特色をまとめる。 ・日本の川は、すごく急で短いということが、資料5からわかる。 ・日本でいちばん大きい湖は琵琶湖である。 日本の川は、山地から平地に向かって流れ、外国に比べ短く流れが急である。また日本には大小様々な湖がある。③-1	◆児童にとって身近な河川を選択し、上流や下流を地図帳で確認させる。 ◆山地や平野との関係にも着目させる。 ◆湖についても着目させる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「山地から平地に流れる川や湖の位置や広がりについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③白地図にまとめる P. 21 国土の地形の特色についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○P. 21の白地図を完成させ、P. 19の資料 5 や地図帳とあわせて、特徴的な地形とその場所などを当てるクイズを出し合う。 ＜クイズの例＞ ・「日高山脈に水源があって十勝平野を流れている川は何でしょう。」→「十勝川です。」 ・「琵琶湖から流れ出ている川は何川で、何という平野を流れているでしょう。」→「淀川で、大阪平野を流れています。」 ○国土の地形の特色についての学習をふり返し、感想と自分の考えを文章に表現する。 日本の国土は、平地が少なく、山地が多く、火山が多い。川は山地から平地に向かって流れ、短く急である。 ③-2	◆地形の名前を使うことを意識させながら、クイズの問題や答えを言わせる。座席の隣同士ぐらいの人数（2～3 名一組）で行う。 ◆調べたことを「ことば」も生かしてまとめさせる。	【知技②】 白地図やクイズ、まとめた文章から、「調べたことをまとめて、国土の地形の特色について理解しているか」を評価する。

目標

我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで低い土地の自然などの様子や低い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活を理解している。	①国土の地形などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子や低い土地の人々の生活について考え表現している。	①低い土地のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、低い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①堤防に囲まれた土地 P. 22～23 海津市の土地の様子や、人々のくらしについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○海津市の航空写真から、土地の様子を話し合う。 ・三つの大きな川に挟まれた平らな土地です。 ・畑か田んぼのようなものが見えるが何を育てているのだろう。 ○土地の高さの地図の0mよりも低いところに色を塗って海津市の土地の高さを調べる。 ・市の多くの部分が0mよりも低いけれど、ここに人が住めるのかな。 ・低い土地ならではのくらしの工夫はあるのかな。 ○学習問題をつくる。 ・まわりに大きな川が三本も流れていて、洪水にならないのかな。	◆航空写真と土地の高さの地図を比較させて、地形の様子を読み取らせる。 ◆等高線から土地の高さを確かめさせる。 ◆話し合っ出てきた疑問点から、学習問題をつくるように助言する。	【思判表①】 ノートの記述内容から、「海津市の地形などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
	②学習の進め方 P. 24～25 学習問題をつくり、学習の進め方を確認しよう。 (1 時間)	○小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ○各学習過程には、「ふり返ろう」の項目があることも確認する。 <学習問題について予想する> ・資料から予想を立てる。 <調べること> ・水害からくらしを守る工夫 ・水を生かしたくらしや産業の工夫 <調べ方> ・教科書を使って調べる。 ・教科書以外で調べる。(インターネット、市のホームページ、図書館、地図帳など) <まとめ方> ・調べてわかったこと、疑問に対する答えと、そこから考えたことをノートに書き分ける。 <いかす> ・学んだことをもとに自分の生活の改善や将来について考える。	◆問題解決的な学習の進め方で学ばせる。 ◆QR コンテンツ「学習の進め方をたしかめよう」を視聴するのも有効である。 ◆調べること、調べ方については、共通理解ができるようによく話し合う。 ◆まとめ方については、学級の実態や教師の願いなどによって、ノート以外の方法も可能である。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「海津市の人々のくらしや産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	③水害とたたかってきた人々 P. 26～27 輪中に住む人々は、水害からくらしをどのように守ってきたのでしょうか。 (1 時間)	○資料 2 と資料 1 や、P. 22 の航空写真を比べて、昔の川の流れがどのように変化したのか、わかったことを話し合う。 ・昔は入り組んだ川の間に多くの輪中があった。 ○「歴史民俗資料館の服部さんの話」を読み、どのように治水が行われたのかを話し合う。 ・明治時代に、デレーケが川の流れを分けることに成功した。 ○資料 5 を読み取ってわかったことを話し合う。 ・1900 年の三川分流工事以降は、大きな水害の発生件数は大幅に減った。 ・しかし、水害がゼロになったわけではない。 ・今でも水防演習をしたり、水防倉庫を備えたりするなど水害への備えをしている。 海津市には、もともと川が入り組んで輪中が多くあったが、明治時代に、ヨハネス・デレーケが川の流れを完全に分け、水害の発生件数は大幅に減った。今でも地域の人々は協力して水防演習を行い、水害に備えている。 ③	◆河川改修工事の歴史について、薩摩藩やデレーケなど、様々な歴史的な流れがあって、今のような川の流れになったことを捉えさせる。 ◆QR コンテンツ「歴史民俗資料館の人にインタビュー」も活用したい。 ◆歴史的な見方・考え方、地域の人々の相互協力などの視点から水害の被害を減らす努力について考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、海津市の洪水の被害が少なくなってきたことや現在も水害への意識をもって訓練をしていることについて理解しているか」を評価する。
	④豊かな水を生かした農業 P. 28～29 輪中に住む人々は、豊かな水をどのように農業に生かしているのでしょうか。 (1 時間)	○資料 1 を見たり、資料 2 と 3 とを見比べて、海津市の農業の変化を話し合う。 ・昔は、沼のような田で稲作を行っていた。 ・現在では、普通の水田になっている。 ○資料 4 と資料 5、「農家の横井さんの話」の内容をもとにわかったことを話し合う。 ・稲の生産がいちばん多い。 ・大豆、麦、野菜、果物など畑でつくるものも多くなってきている。 ・大きな排水機場ができて、余計な水を輪中の外にくみ出している。 ○資料 6 を見て、畑作に必要な水をどのように確保しているか、わかったことを話し合う。 ・P. 23 資料 5 を見ると、用水路が多いのは、標高が 0m 以上の場所だとわかる。 輪中では昔から農業を行っていたが、道路や揚排水機場、パイプラインなどの整備により、豊かな水を生かした大規模な農業を可能にした。 ④	◆資料 1 と、資料 2 ・ 3 を見比べて、海津市の農業がどのように変わってきたのか、歴史的な視点から考えるように助言する。 ◆ICT 端末でインターネット検索する際は、教科書の「まなび方コーナー」を参照する。 ◆配水の課題が克服され、稲作以外にも農業が多角化してきたことを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、海津市では、水害の減少とともに、豊かな水を農業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤水を生かした生活 P. 30 海津市の人々は、豊かな水をどのように生活に生かしているのでしょうか。 (1/2 時間)	○資料 1 ～ 6 から、低い土地ならではの楽しみを見つけて話し合う。 ・木曽三川公園で遊べる。 ・カヌーが楽しめる。 ・魚料理が楽しめる。 ・ヨットの練習ができる。 (インターネットで海津市のくらしの様々な特徴を調べてもよい。) 海津市の人々は、低い土地ならではの川や水を生かした楽しみがあり、市民のレクリエーションや観光などに広い土地や豊かな水を生かしている。 ⑤-1	◆低地は水害の克服というイメージが強いので、別の視点から海津市の様子を捉えるように働きかける。特に水は人々に楽しさやおいしさを与えてくれるというイメージを捉えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、海津市では豊かな水をどのように生活に生かしているのかについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑤ノートにまとめる P. 31 海津市の人々のくらしや産業におけるくふうについてまとめましょう。 (1/2 時間)	○P. 31のノート例のように、わかったことを考えて書く。 ・沼のような昔の田は、普通の田になっている。 ・稲の生産がいちばん多い。 ・畑で生産するものも多い。 ・大きな排水機場による排水と、揚水機場と用水路による配水がある。 ・低い土地ならではの楽しみがある。 海津市の人々は、明治時代の川の大改修を経て、水害を克服してきた。低地の地形を生かした農業や、季節ごとの楽しみを生かした観光などを通して、低地の自然環境を生かしたくらしをしている。 ⑤-2	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。 ◆教科書には「(教科書の) 空らんに書きこんでみましょう」とある。直接書き込むことはもちろん、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を使用し、ICT 端末上でまとめてもよい。	[知技②] ノートの記述内容から、「調べたことをまとめて、低い土地の人々が自然環境に適応して生活していることについて理解しているか」を評価する。 [思判表②] まとめの文章の内容から、「低い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。

1－③ 高い土地のくらし

5 時間／上 P. 32～39

目標

我が国の国土の様子について、国土の地形に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで高い土地の自然などの様子や高い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の地形の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の地形などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活を理解している。	①国土の地形などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子や高い土地の人々の生活について考え表現している。	①高い土地のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、高い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や地形の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価基準と評価方法
学習問題をつかむ	①山のすそ野に広がる高原 P. 32-33 嬬恋村の土地の様子や、人々の暮らしについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○嬬恋村の航空写真から、土地の様子を話し合う。 ・ くだらな斜面には畑のようなものが見える。 ○嬬恋村と東京の月別平均気温を比べてわかったことを話し合う。 ・ 嬬恋村は1年を通して、東京よりも気温が低い。 ○嬬恋村の土地利用図を読み込んでわかったことや疑問を話し合う。 ・ どうして標高の高いところでキャベツをつくるのかな。 ○P. 33の本文と嬬恋高原キャベツマラソン大会の写真からわかることを読み取って発表する。 ・ 夏でも涼しいからマラソン大会ができるのかな。 ○学習問題をつくる。 ・ 東京よりも寒い気候でキャベツはできるのかな。 ・ 高い土地で生活するためにはどのような工夫をしているのかな。	◆航空写真と土地利用図を比較させて、地形とキャベツ畑のある場所を考えさせる。 ◆キャベツ畑が標高の高いところに広がっていることと、嬬恋村の気温の関連に着目させる。 ◆話し合っ出てきた疑問点から、学習問題をつくるように助言する。	[思判表①] ノートの記述内容から、「嬬恋村の地形などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
	②学習の進め方 P. 24~25 学習問題をつくり、学習の進め方を確認しよう。 (1 時間) ※本教材は選択教材のため、第2時は「低い土地の暮らし」内P. 24~25「学習の進め方」を指導する。	○小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ○各学習過程には、「ふり返ろう」の項目があることも確認する。 <学習問題について予想する> ・ 資料から予想を立てる。 <調べること> ・ 高い土地に住む人々の暮らしや産業 ・ それぞれ、どのような工夫があるのか。 <調べ方> ・ 教科書を使って調べる。 ・ 教科書以外で調べる。(インターネット、村のホームページ、図書館、地図帳など) <まとめ方> ・ 調べてわかったこと、疑問に対する答えと、そこから考えたことをノートに書き分ける。 <いかす> ・ 学んだことをもとに自分の生活の改善や将来について考える。	◆問題解決的な学習の進め方で学ばせる。 ◆QR コンテンツ「学習の進め方をたしかめよう」を視聴するのも有効である。 ◆調べること、調べ方については、共通理解ができるようによく話し合う。 ◆まとめ方については、学級の実態や教師の願いなどによって、ノート以外の方法も可能である。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「嬬恋村の人々の暮らしや産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	③あれ地を耕し広い畑に P. 34～35 嬭恋村のキャベツづくりは、どのようにしてさかんになってきたのでしょうか。 (1 時間)	○昔の嬭恋村の写真を見て、嬭恋村でキャベツの生産がさかんになった理由や歴史の流れについてわかったことを話し合う。 ・火山灰のやせた土地で農業には不向きだった。 ・夏でも涼しい気候を生かした栽培方法が工夫されてキャベツづくりがさかんになった。 ・1933年ごろに国道が通って、交通が便利になった。 火山灰が積もってできた土地で野菜づくりには不向きだった嬭恋村を、人々が土地を改良して夏の涼しい気候を生かしたり、交通網の発達を生かしたりしながら全国一のキャベツの生産地にしていった。③	◆嬭恋村の農業の歴史年表、昔の嬭恋村の写真と、嬭恋郷土資料館の齋藤さんの話を関連付けて読み、わかったことを話し合わせる。 ◆歴史的な見方・考え方や空間的な広がりや、交通の発達に関する視点を生かして考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬭恋村の人々の取り組みの歴史や、今では、嬭恋村が夏でも涼しい気候を生かしてキャベツの日本一の生産地になったことを理解しているか」を評価する。
	④夏に新鮮なキャベツをとどける P. 36～37 嬭恋村のキャベツづくりには、どのようなふうがあるのでしょうか。 (1 時間)	○P. 36～37の写真から、キャベツづくりの1年の様子で工夫していることをノートに書き出す。 ・予冷库で冷やすことで、鮮度を保ったまま消費地に届けている。 ○資料3「嬭恋村のキャベツごよみ」を関連付けて読む。 ・種まきをずらすことで、春から秋の何回にも分けて出荷できる。 ○資料8「季節ごとのキャベツの産地」を見てわかったことをノートに書く。 夏秋キャベツの生産は群馬県が最も多い。夏涼しい高原の気候を生かして、春から秋までの長い期間、何回にも分けて出荷している。④	◆キャベツづくりの手順を表す写真1～7と、資料3「嬭恋村のキャベツごよみ」を関連付けて読むように助言する。 ◆QR コンテンツ「JA 嬭恋村の人にインタビュー」も活用したい。 ◆作業一つ一つにある工夫とともに、春から秋まで長い期間、何回にも分けて出荷できる工夫があることを見つけさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬭恋村では高地の気候を生かしてキャベツを生産していることや、新鮮で安全な野菜を出荷するための様々な工夫をしていることを理解しているか」を評価する。
	⑤自然のめぐみを生かす P. 38 嬭恋村の人々は、豊かな自然を、どのように生活に生かしているのでしょうか。 (1/2 時間)	○写真資料から、高い土地ならではの楽しみを見つけて話し合う。 ・地元で収穫されたキャベツが学校給食に出される。 ・冬はスキーやスケート、夏はスポーツ合宿などができる。 嬭恋村には、高い土地ならではの楽しみが季節ごとにあり、自然や気候の特色をくらしに生かしている。⑤-1	◆農業生産の視点だけでなく、別の視点からも嬭恋村の様子を捉えるように働きかける。特に季節ごとの楽しみ方があることを捉えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、嬭恋村では高い土地をどのように生活に生かしているのかについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤ノートにまとめる P. 39	○P. 39のノート例のように、わかったことを考えて書く。 ・高原野菜の生産や、季節ごとの気候を生かした観光産業を行うことを通して、高原の自然環境を生かした生活をしている。	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。	【知技②】 ノートの記述内容から、「調べたことをまとめて、高い土地の人々が自然環境を生かして各季節の楽しみを見つけ、生活していることを理解しているか」を評価する。
	嬬恋村の人々のくらしや産業におけるくふうについてまとめましょう。 (1/2 時間)	嬬恋村の人々は、高い土地に適応して生活しており、高原野菜の生産や、季節ごとの気候を生かした観光産業を行うことを通して、高原の自然環境を生かしたくらしをしている。 ⑤-2	◆教科書には「(教科書の)空らんには書きこんでみましょう」とある。直接書き込むことはもちろん、QRコンテンツ「まとめるワークシート」を使用し、ICT 端末上でまとめてもよい。	【思判表②】 まとめの文章の内容から、「高い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。

目標

我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで国土の気候の様子を捉え、国土の気候の特色を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の気候について、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の気候の様子を理解している。	①国土の気候に着目して、問いを見だし、国土の気候の様子について考え表現している。	①我が国の国土の気候の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の国土の気候の概要を理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①四季の変化がある日本の気候 P. 42～43 日本の気候について考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○P. 42の写真（長野県松本市）をもとに、身近な地域の四季の変化と比較しながら、気づいたことを発表し合う。 ・ 四季の様子 ・ つゆの時期や台風がくる時期がある。 ○資料 1 や 3 月の各地の様子（資料 2～5）を見せ、地域によっても気候が異なることに気づかせ、学習問題につなげる。 ・ 桜の咲き始める時期は、場所によって違う。 ・ 3 月の沖縄と北海道では、あたたかさが大きく異なる。 ・ つゆや台風の影響も、地域ごとに異なるのかな。	◆「気候」という「ことば」を確認する。 ◆同じ場所の各月の風景の違いを予想させる（春や秋に比べて、夏や冬の風景の差は小さめである）。 ◆QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、日本の四季の変化に関心をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「地域や時期による気候の違いや変化に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 日本の気候には、どのような特色が見られるのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 ・ つゆ、台風、季節風の影響 ・ 各地の気候の違い	◆つゆ、台風、雪、季節風が気候に与える影響に関心をもたせ、調べる活動につなげる。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から「我が国の気候の特色について予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②つゆと台風、季節風 P. 44～45 日本のつゆや台風、季節風には、どのような特色があるのでしょうか。 (1 時間)	○日本の気候を特色づけているつゆ、台風、降雪に関わる景観写真を見て、どの季節のどの写真か予想する。 ○資料 4 から、7 月と 1 月の平均降水量を比較する。 《日本列島全体の特色》 ・ 日本列島全体では、夏（7 月）に降水量が多く、冬（1 月）は少ない。 《地域ごとの違い》 ・ 太平洋側は夏に降水量（雨）が多く、日本海側は冬に降水量（雪）が多い。 ・ 北海道では夏でも雨が少ない地域がある。 ・ 沖縄は冬でも雨が多い。 ○資料 1～6 や本文から、夏と冬の降水量が異なる理由を確認する。 ・ 夏は、つゆや台風の影響で雨が多く降る。 ・ 雨は、農業にとってめぐみの雨となるが、台風などによって被害が出ることがある。 ・ 特に太平洋側は季節風の影響で雨が多く降る。 ・ 冬は、季節風の影響によって日本海側で雪が多く降る。	◆「雨（雪）が多いのは、どこか、どの範囲か」というように位置や空間に着目し、読み取りができるよう留意する。 ◆季節風という「ことば」を確認する。 ◆地形の学習をふり返り、季節風と地形の関係性を確認する。 ◆それぞれの気候現象が人々のくらしに及ぼしている影響にも留意するように指導する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の気候の特色であるつゆや台風、季節風とその影響を理解しているか」を評価する。
		つゆや台風、季節風は、日本の気候を特色づけている現象であり、人々のくらしにも大きく関係している。②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③地域によってこ となる気候 P. 46～47 各地の気候に は、どのような 特色があるのだ しょうか。 (1/2 時間)	○資料1の気温と降水量のグラフや「まな び方コーナー」をもとに、グラフの読み 取り方を学ぶ。 ○日本の気候を六つに区分した地図と、各 地の気温と降水量のグラフを見比べて考 えたことを話し合う。 ・北（北海道）と南（沖縄）で気温が大き く異なる。 ・季節風の影響で、太平洋側は夏に降水量 （雨）が多く、日本海側は冬に降水量 （雪）が多い。 ・中央高地や瀬戸内海などの日本の内陸側 の降水量は海側よりも少ない。 ・山地などの高いところでは、気温が低く なる。 日本各地の気候の特色は、年間の気温と 降水量などで区分される。また、南北の 位置や地形、土地の高さなどによって、 雨の多い地域、雨の少ない地域、雪の多 い地域のように気候は異なっている。 ③-1	◆P. 46 の「まなび 方コーナー」を活 用し、気温と降水 量のグラフの読み 取り方を確認す る。 ◆QR コンテンツ 「どこの気候かわ かるかな？」を活 用し、ゲーム形式 で学ぶのもよい。 ◆二つの地域の気 温や降水量を位置 や地形と関連付 け、比較すること で、各地域の気 候の特色を 読み 取り、考え を深 める中で各地の気 候の特色をまとめ ていきたい。	【思判表①】 ノートの記述内容 や発言内容から、 「南北の位置や地 形によって分けら れる日本各地の気 候の特色について 考え表現している か」を評価する。
ま と め る	③キーワードでま とめる P. 47 日本の気候の 特色についてま とめましょう。 (1/2 時間)	○日本の気候の特色と各地の気候に影響を 与えるものをキーワードで挙げ、整理す る。 ○キーワードを使い、考えたことをノート にまとめ、みんなで話し合う。 日本の気候には、四季の変化が見られ、 南北の位置、地形や季節風などによる地 域差が大きい。また、つゆや台風等が、 人々の暮らしに大きく関係している。 ③-2	◆調べたことをこれ まで学んだ「こと ば」を使ってまと めるとともに、日 本の気候の特色に ついて自分の考え を表現させる。	【知技②】 ノートにまとめた 文章や発言内容か ら、「四季やつ ゆ、台風など時期 による変化や国土 の地理的位置によ る地域ごとの違い など日本の気候の 特色を理解してい るか」を評価す る。

目標

我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることであたたかい土地の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活を理解している。	①国土の気候などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子やあたたかい土地の人々の生活について考え表現している。	①あたたかい土地のくらしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、あたたかい土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①沖縄県の家やくらしのくふう P. 48～49 沖縄県の家やくらしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真を見ながら、自分たちのくらしている地域との違いを発表し合う。 ・わたしたちの学校のプール開きは6月だよ。3月に海開きをしている。 ・3月はまだ長袖を着ているよね。 ○グラフを見て、沖縄県の気候の特色を話し合う。 ・1月でも気温が15度以上ある。 ・雨がたくさん降る。 ・台風が多いみたいだ。 ○沖縄の家の写真やイラストを見て、気づいたことを話し合う。 ・わたしの家にはない工夫がたくさんある。 ・暑さや水不足に備えた工夫がある。	◆海開きの写真から、沖縄の暑さについて想像させる。 ◆雨温図の最低気温の月の気温や降水量の多い月を読み解かせ、台風の多さや気温の高さなど沖縄の気候の特徴をつかませる。 ◆沖縄の家屋の特徴から、気候に合わせた生活をしていることをつかませるとともに、産業や文化についても調べようとする意欲をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「海開きの写真や台風が通る回数に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「沖縄県の人々のくらしや産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。 ○学習計画を立てる。		
調べる	②あたたかい気候に合った農業 P. 50～51 沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かしてどのような産業を営んでいるのでしょうか。 (1 時間)	○写真とグラフからさとうきび栽培について話し合う。 ・さとうきびの栽培がさかんだね。 ・竹のような作物だね。 ・どうやって砂糖にするのかな。 ○製糖会社の砂川さんの話を読み、さとうきびについて話し合う。 ・さとうきびは沖縄の気候に合っている。 ・沖縄の人々はさとうきび栽培を大切にしてくれている。 ○写真からパイナップル栽培について話し合う。 ・わたしたちの住んでいる地域ではパイナップルはつくっていないね。 ・パイナップルはあたたかい地域の作物だね。 ○パイナップル農家の話や電照菊の栽培について読み、沖縄の自然環境に合った農業について話し合う。 ・沖縄の人々はあたたかい気候を生かした農業を工夫している。	◆作付面積のグラフや写真から、さとうきび栽培がさかんな様子を知り、どうしてさかんになったのか考えさせる。 ◆「製糖会社の砂川さんの話」から、さとうきびが沖縄の農業に欠かせない作物であることを考えさせる。 ◆写真から、どうして沖縄ではパイナップルが栽培できるのか考えさせ、自然環境の特色に目を向けさせる。 ◆農家の話や電照菊の栽培の説明から、自然条件を生かし、人々が農業の発展に努めている様子に気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、さとうきびやパイナップル、菊が沖縄のあたたかい気候に合った作物として栽培されていることや農家の工夫や努力について理解しているか」を評価する。
		沖縄県では、1年を通して気温や湿度が高い気候に合ったさとうきびを栽培している。また、パイナップルなど沖縄県の気候に合う特産物も栽培している。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③あたたかい気候を生かした観光と沖縄の課題 P. 52～53 沖縄では、あたたかい気候をどのように生かしているのでしょうか。 (1 時間)	○写真とグラフから沖縄の自然と観光について話し合う。 ・白い砂浜やさんごしょうがきれい。 ・プロ野球のキャンプも行われている。 ・観光客が増えている。 ○県庁の砂川さんの話を読んで、沖縄の観光について意見を発表し合う。 ・美しい自然やあたたかい気候を生かした観光を行っている。 ・外国からの観光客を増やす工夫もしている。 ○資料などから沖縄の課題について発表する。 ・さんごしょうは温暖化などによって白くなってしまうことがあるんだね。 ・アメリカの軍用地が残されているね。 沖縄県は、1 年を通してあたたかい気候や、美しい自然を生かした観光産業がさかんで、多くの観光客が訪れている。一方で、環境を守る上で課題もある。 ③	◆写真の美しい自然に目を向けさせるとともに、あたたかい気候とも関連付けて、沖縄の観光の特色について考えさせる。 ◆QR コンテンツ「沖縄県庁の人にインタビュー」を活用すると、より詳しい情報を得ることができる。 ◆沖縄の観光が自然条件や環境を生かして行われているとともに、人々が工夫していることに気づかせる。 ◆沖縄の観光を支える自然環境の保全や軍用地の課題について意見をもたせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「あたたかい気候を生かした観光がさかんな一方で、美しい自然を壊す開発などの沖縄が抱える課題について、考え表現しているか」を評価する。
	④古くからの文化を守る P. 54～55 沖縄県の文化は、どのようなものでしょうか。 (1/2 時間)	○写真から沖縄の文化について気づいたことを発表し合う。 ・色鮮やかな建物や服装だね。 ・食べ物も特徴がある。 ○沖縄の文化について調べる。 ・古くからアジアの国々と貿易をしていた。 ・南にある島だから、独自の文化が生まれたんだね。 沖縄県の人々は、歴史ある豊かな文化と自然を大切にし、自分たちの文化を守り、次の世代に引き継ぐ努力をしている。 ④- 1	◆写真から沖縄の文化の独自性に気づかせる。 ◆南に位置する沖縄の地理的な条件が独自の文化を生んだことを理解させる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、沖縄県の文化の特色について理解しているか」を評価する。
	④表にまとめてキャッチコピーをつくる P. 55 あたたかい土地のくらしの特色についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○沖縄の特色を表にまとめる。 ・これまでの学習をふり返り表にまとめる。 ○学習したことをもとに沖縄の特色を表すキャッチコピーをつくる。 ・産業も文化も自然や気候と切り離せないね。 沖縄県では、夏の暑さや台風からくらしを守る工夫をするとともに、あたたかい気候や美しい自然を生かした観光産業がさかんで、気候を生かした特産物があるなど、自然条件を生かしたくらしをしている。 ④-2	◆学習したことについて、生活や産業、文化などの項目に分けてまとめる。 ◆表をもとにキャッチコピーをつくらせる。	【知技②】 表やキャッチコピーの内容から、「あたたかい気候を生かした沖縄の特色について理解しているか」を評価する。 【思判表②】 キャッチコピーの内容から、「あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて、考え表現しているか」を評価する。

目標

我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで寒い土地の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活を理解している。	①国土の気候などに着目して、問いを見いだし、国土の自然などの様子や寒い土地の人々の生活について考え表現している。	①寒い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、寒い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。	②我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたりし、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①北海道の家やくらしのくふう P. 56～57 北海道の家やくらしのくふうについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真を見ながら、自分たちのくらしている地域との違いを発表し合う。 ・わたしたちの学校ではスキー学習はないね。 ・こんなに雪が積もっているんだね。 ○グラフを見て、北海道の気候の特色を話し合う。 ・1月などは0度を下回っている。 ・冬の降水量も多いね。 ・雪が多いみたいだ。 ○北海道の家の写真やイラストを見て、気づいたことを話し合う。 ・わたしの家にはない工夫がたくさんある。 ・寒さや雪に備えた工夫がある。	◆スキー学習の写真から、北海道の寒さについて想像させる。 ◆雨温図の最低気温の月の気温や降水量の多い月を読み解かせ、北海道の気候の特徴をつかませる。 ◆北海道の家屋の特徴から、気候に合わせた生活をしていることをつかませるとともに、産業や文化についても調べる意欲をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「スキー学習の写真や雨温図に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「北海道の人々のくらしや産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 北海道の人々は、雪や寒い気候をどのようにくらしや産業に生かしているのでしょうか。 ○学習計画を立てる。		
調べる	②札幌市の雪対策と雪を生かした観光 P. 58～59 札幌市に住む人々は、雪とともにどのような生活を営んでいるのでしょうか。 (1 時間)	○写真から雪対策について話し合う。 ・雪が山のように積まれている。 ・雪を溶かす施設やためておく施設が市内にたくさんある。 ○雪対策室の高田さんの話を読み、雪対策について話し合う。 ・人々の生活に影響が出ないように様々な工夫をしている。 ○雪まつりの写真から、雪を生かした取り組みについて意見を発表し合う。 ・雪を使って楽しそうなことをしている。 ・誰がこんな大きな雪像をつくったのかな。 ○グラフや市役所の辻本さんの話を読んで、雪の多さを生かした観光について話し合う。 ・北海道の人々は雪の多さを生かした観光を工夫している。 雪の多い札幌市では、除雪を行うなど雪を克服したり、雪を生かして観光を営んだりしている。②	◆写真から雪の多さを捉えさせ、雪対策の大切さについて考えさせる。 ◆人々の生活を守るために、雪対策が欠かせないことを考えさせる。 ◆QR コンテンツ「札幌市雪対策室の人にインタビュー」を活用し、市の雪対策について考えさせる。 ◆写真から、雪を生かした遊びの楽しさを想像させ、雪まつりの起源を考えさせる。 ◆観光客の少ない冬に祭りをを行う工夫を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の生活を守るために雪対策を行っていることや、雪を有効利用した観光事業の創設と工夫や努力などについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③北海道の自然を生かした農業 P. 60～61 北海道の人々は、自然を生かしてどのような産業を行っているのでしょうか。 (1 時間)	○航空写真から十勝地方の農業について話し合う。 ・とても広い農地だね。 ・たくさんの農産物ができそうだ。 ・何をつくっているのだろう。 ○農家の坂東さんの話から、十勝地方の農業について意見を発表し合う。 ・広い土地を生かして農業をしている。 ・病気を防ぐために輪作などの工夫もしている。 ○酪農の様子の写真や地域別の生乳生産量の割合のグラフをもとに、話し合う。 ・北海道地方は生乳生産量が日本全体の半分以上もある。 ○米農家の山本さんの話を読んで話し合う。 ・北海道の西部はお米の生産がさかんだ。 ・夏の湿気の少ない気候をうまく使っている。 十勝地方では、広大な土地や夏でも涼しい気候を生かして農業や酪農を行っている。 ③	◆広大な農地の写真から、十勝地方の農業の特色を想像させる。 ◆十勝地方の農業が地理的条件を生かしているとともに、輪作など、人々が工夫していることに気づかせる。 ◆写真やグラフ、米農家の話から米づくりがさかんに行われていることに気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、涼しい気候と広大な土地を生かした北海道の農業や酪農の様子について理解しているか」を評価する。
	④守ってきた文化を受けつぐ P. 62～63 北海道に伝わるアイヌの文化は、どのようなものなのでしょうか。 (1/2 時間)	○写真から北海道の文化について気づいたことを発表し合う。 ・特徴のある服装だね。 ・食べ物も特徴がある。 ○北海道の文化について調べる。 ・昔から先住民族のアイヌの人々が生活している。 ・本州やロシアと交流しながら独自の文化をつくってきたんだね。 北海道には、昔から先住民族のアイヌの人々がいて、独自の文化をつくってきた。 ④-1	◆写真からアイヌの文化の独自性に気づかせる。 ◆現在もアイヌの人々が生活し、先住民族であるアイヌの人々の文化を尊重することの大切さに気づかせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、アイヌ文化の特色について理解しているか」を評価する。
	④表にまとめてキャッチコピーをつくる P. 63 寒い地方のくらしの特色についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○北海道の特色を表にまとめる。 ・これまでの学習を表にまとめてみよう。 ○学習したことをもとに、北海道の特色を表すキャッチコピーをつくる。 ・産業も文化も自然や気候と切り離せないね。 北海道の人々は、冬の寒さや雪からくらしを守る工夫をするとともに、夏の涼しさや雪を生かした観光や広大な土地を使った農業などがさかんで、北海道の自然条件を生かしたくらしをしている。 ④-2	◆学習したことについて、生活や産業、文化などの項目に分けてまとめる。 ◆調べたことを表にまとめ、キャッチコピーをつくる。	【知技②】 表やキャッチコピーの内容から、「寒い気候を生かした北海道の特色について理解しているか」を評価する。 【思判表②】 キャッチコピーの内容から、「寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて、考え表現しているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちは、ふだん、どのようなものを食べているのでしょうか。 (1 時間)	○全国の給食や学校の給食の材料について話し合い、単元のめあてをつくる。 ・全国にはいろいろな給食がある。 ・給食にはいろいろな材料が使われている。 ・給食の献立は、米や豆、果物、水産物、野菜、畜産物に分類できる。 ・給食の材料は、地域だけでなく、全国各地から集められている。 ----- 単元のめあて わたしたちが食べているものは、どこでどのようにつくられ、運ばれてきているのでしょうか。 -----	◆全国の給食について話し合わせるときには、地域の特産品を使って給食がつけられていることに気づかせる。 ◆給食の献立を分類するときには、米や豆、果物、水産物、野菜、畜産物に分類させる。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「わたしたちが食べているものから、食料生産について関心を高めているか」を評価する。

2－① くらしを支える食料生産

4 時間／上 P. 68～75

目標

我が国の農業や水産業における食料生産について、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要を理解している。	①身近な食料品の産地に着目して問いを見いだし、我が国の食料生産の概要について考え表現している。	①我が国の食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解している。	②生産物の種類や分布、生産量の変化、自然条件との関わりなどを総合して、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動	・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①産地調べ P. 68～69 わたしたちが食べている食料品の産地について調べ、学習問題をつくりましょう。 (1時間)	○スーパーマーケットのちらしを地図に貼り付け、食料品の産地の広がりについて話し合い、学習問題をつくる。 ・スーパーマーケットの食料品は、わたしたちの県や近くの県のものが多い。 ・外国から来た食料品もたくさんある。 ・米の生産されているところは、どのような地形や気候なのか。 ・同じ果物でも、りんごやみかんではとれるところが違う。	○学習問題の解決に向け、予想し、学習計画を立てる。 ・米の産地は平野で川があるところではないか。 ・野菜や果物などの生産地は、生産物によって違うのではないか。 〔調べること〕 ・米の主な産地 ・野菜、果物、畜産物や水産物の産地	◆持ち寄ったちらしを地図に貼り付けることで、スーパーマーケットで売られている食料品が全国でつくられていることに気づくようにする。	〔思判表①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「食料品の産地の広がり」に着目して、問いを見いだしているかを評価する。
		学習問題 わたしたちの暮らしを支えている食べ物の産地は、どのように広がっているのでしょうか。		◆産地調べの際は、QRコンテンツ「産地調べをしてみよう」を活用するとよい。 ◆地形や気候などの自然条件の違いが、食料品の産地の違いに影響を及ぼしていることに気づくようにしながら、学習計画を立てるようにする。	〔態度①〕 白地図の内容や発言内容から、「我が国の食料生産の概要について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②日本の米づくり P. 70～71 米の主な産地は、どのようなところでしょうか。 (1時間)	○P. 70の写真を見て、日本の米づくりの様子について調べる。 ・米は様々な地域でつくられている。 ・同じ6月でも、地域によって米づくりの様子が違う。 ○米づくりのさかんな地域の地形や気候の様子について話し合う。 ・東北地方や関東地方、北海道には多くの平野や川があって、それが米づくりに適している。 ・米づくりは、その地域の地形や気候に合わせて作業が進められている。	○米づくりのさかんな東北地方や北海道、新潟県などでは、昼夜の寒暖差や雪解け水などの自然条件を生かして米づくりを進めていることに気づくことができるように、地図帳や写真等の資料を活用する。	◆4枚の写真は、同じ6月の米づくりの作業であることに着目させ、米づくりは気候との関係があることに気づくようにする。	〔知技①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、米の主な産地や、米づくりが地形や気候などの自然条件を生かして進められていることを理解しているか」を評価する。
		米は、その地域の地形や気候に合わせて全国各地の水田で生産されているが、特に東北地方や新潟県、北海道の収穫量が多い。	②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③農産物の産地 P. 72～73 野菜、果物、畜産の産地は、どのように広がっているのでしょうか。 (1 時間)	○日本の農産物の生産額について調べる。 - 我が国の農産物の生産額は、畜産物、野菜、米の順に多くなっている。 - 野菜の生産額は、一時期より減っているが、60 年前と比べると増えている。 - 畜産物の生産額は減ってきていたが、最近少しずつ増えている。 ○日本の農産物の産地を調べる。 - 野菜の生産額は、北海道や関東地方、九州が多い。 - 果物はつくられるところが限られている。 - 畜産物の生産額は、北海道と九州が多い ○野菜、果物、畜産のさかんな地域の地形や気候の様子について考える。 - 野菜は全国で、気候に合わせて様々なものがつくられている。 - りんごは涼しい気候を利用して、みかんはあたたかい気候を利用してつくられている。 - 畜産は、広い土地のある北海道や九州が主な産地になっている。 野菜、果物、畜産物は、自然条件を生かして生産しているため、主な産地は、生産物によってそれぞれ異なっている。 ③	◆「まなび方コーナー」を活用して、折れ線グラフの読み取り方を理解した上で、増加している農産物と減少している農産物に気づくことができるようにする。 ◆野菜、果物、畜産の三つの地図を比較して、日本各地で農産物が生産されていることに気づくことができるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、野菜、果物、畜産物の産地の全国的な広がりを自然条件との関わりで理解しているか」を評価する。
まとめる	④地図とノートにまとめる P. 74～75 わたしたちが食べている食べ物の主な産地は、どのようなところか、まとめましょう。 (1 時間)	○学習問題について調べたことをもとにして、食べ物の主な産地について白地図に整理する。 - 米は、東北地方や新潟県、北海道の生産量が多い。 - 野菜は種類によって生産量 1 位の県が異なっている。 - りんごは青森県の生産量が圧倒的に多い。 - 水産物の水揚げ量は、千葉県、静岡県、北海道の港が多い。 ○白地図にまとめたことをもとに、食料生産のさかんな地域の広がりや自然条件について整理し、日本の食料生産について考えをまとめる。 - 野菜は、気候などの自然の特色を生かして全国で生産されている。 - 畜産は、北海道や九州などの広い土地のある都道府県でさかんに行われている。 我が国の食料生産は、気候や地形などの自然条件を生かして営まれ、国民の食料を確保する重要な役割を果たしている。 ④	◆地図帳を活用して、都道府県の位置を確認しながら調べてきたことを白地図に整理するようにする。 ◆米、野菜、果物、畜産物、水産物の産地の広がりや自然条件との関連をノートに整理し、日本の食料生産全体の大まかな様子について考えたことをまとめる。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめ、野菜、果物、畜産物の産地の広がりを自然条件との関わりで理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容から、「生産物の種類や分布、自然環境の特色を関連付け、我が国の食料生産の特色を考え表現しているか」を評価する。

目標

我が国の米の生産について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料などで調べ、まとめることで、米づくりに関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の米づくりに関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、米づくりに関わる人々の工夫や努力を理解している。	①米の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、米づくりに関わる人々の工夫や努力について考え表現している。	①我が国の米の生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを新聞にまとめ、米づくりに関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な米を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	②米づくりの仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて米づくりに関わる人々の働きを多角的に考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①庄内平野の地形と気候の特色 P. 76～77 庄内平野はどのようなところなのか。 (1時間)	○庄内平野の航空写真を見て、地形や気候についてわかったことを発表し合う。 ・庄内平野は平らな土地が広がっている。 ・庄内平野に多くの水田があって、水田の中に川が流れている。 ・近くには高い山もある。 ○土地利用図や雨温図を読み取り、庄内平野の地形と気候の条件について話し合う。 ・庄内平野には川がたくさんある。 ・酒田市は宮古市と比べ、冬に降水量が多く、夏の平均気温が高い。 ・酒田市は春から秋にかけて日照時間が長い。 ・地形や気候が、庄内平野の米づくりに関係しているのではないかな。 米づくりのさかんな庄内平野では、米づくりに適した自然条件がそろっている。①	◆地図帳を活用して、山形県と庄内平野の位置を確認する。 ◆「まなび方コーナー」を活用して、土地利用図を読み取り、雨温図とあわせて、庄内平野の地形と気候の特色に気づくようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「庄内平野の地形や気候の特色に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
	②庄内平野の米づくり P. 78～79 庄内平野の米づくりについて話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1時間)	○写真やグラフを読み取り、わかったことや疑問を出し合って学習問題をつくる。 ・庄内平野には広い水田がたくさんある。 ・庄内平野のある山形県では、10a あたりの米の生産量が高いのはなぜだろう。 ・庄内平野の米づくりには、農家の様々な工夫や努力があるのではないかな。 学習問題 庄内平野で米づくりにかかわる人々は、どのようにくふうや努力をして、米を生産しているのでしょうか。	◆庄内平野が日本有数の米の産地であることに気づくようにし、その疑問を学習問題につなげていく。	
		○学習問題の解決に向け、予想し、学習計画を立てる。 ・米づくりにはいろいろな工夫があるのではないかな。 ・農家の人たちは助け合って米づくりをしているのではないかな。 ・仕事をしやすくするための工夫があるのではないかな。 ・わたしたちのところへ米を届ける工夫もあるのではないかな。 [調べること] ・農家の1年間の仕事 ・農家の人の工夫や努力 ・米が消費者に届くまでのしくみ など	◆学習問題についての予想を確かめるためには何を調べればよいかを話し合い、出された意見を整理しながら学習計画を立て、調べ方やまとめ方も相談する。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「庄内平野の米づくりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調べる	③ 祢津さんの米づくり P. 80～81 農家の人々は、米づくりをどのように進めているのでしょうか。 (1 時間)	○ 祢津さんの話から、1 年間を通してどのような計画で仕事を進めているかを調べる。 ・ 祢津さんは農業だけを行っている専業農家である。 ・ 農家では1 年間を通して様々な作業を行っている。 ○ 農作業ごよみで1 年間の仕事を確認し、米づくりの仕事について考える。 ・ たくさんの機械を使って作業を進め、できた米はカントリーエレベーターに保管している。 ・ 農家は一人で米づくりを進めるのではなく、地域の人と協力して、米づくりをしている。 米づくり農家は、種もみを選ぶところから出荷前のもみすりまで、様々な仕事を行っている。 ③	◆ 米づくりが1 年を通して計画的に行われていることに気づくようにする。 ◆ QR コンテンツ「米づくり農家の人にインタビュー」を視聴し、農家の仕事の様子への理解を深めるようにする。 ◆ 農作業ごよみや写真を通して、米づくり農家の工夫や努力に目を向けられるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、年間を通しての米づくりの仕事について理解しているか」を評価する。
	④ 米づくりの仕事のくふう P. 82～83 農家の人々は、米づくりの仕事についてどのようにくふうや努力をしてきたのでしょうか。 (1 時間)	○ 米づくりのための土地の工夫について調べる。 ・ 用水路と排水路で、米づくりに欠かせない水の量を上手に調整している。 ・ 地域の農家や団体と協力して耕地整理を行ってきた。 ○ 米づくりのための機械化について調べ、そのよさや課題について話し合う。 ・ 米づくりは手作業から機械に変わってきた。 ・ 機械化によって米づくりの労働時間が短くなってきた。 ・ 機械は高価である。 米づくり農家は、耕地整理や機械化を進め、生産性を高める工夫や努力を進めてきた。 ④	◆ 庄内平野の米づくりについて、土地生産性の観点から農家の工夫や努力に気づくようにする。 ◆ 庄内平野の米づくりについて、労働生産性の観点から農家の工夫や努力に気づくようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生産性を高めるために農家が行ってきた工夫や努力について理解しているか」を評価する。
	⑤ 庄内平野の米づくりを支える人たち P. 84～85 農家の人々を、だれがどのように支えているのでしょうか。 (1 時間)	○ 祢津さんや中場さんの話をもとに、庄内平野の米づくりにはどのような人たちが関わっているのかを調べる。 ・ 稲が安全で順調に育つために、農業協同組合（JA）の人々や市役所の人々が協力している。 ・ 市役所の人々も関わっている。 ・ 水田農業研究所では、品種改良など、品質や味のよい米の研究をしている。 ○ 米づくりでは、なぜ人々の協力が必要なのか話し合う。 ・ 米づくりは、農家だけではできない。 ・ おいしくて安全な米をつくるためには、様々な人の知恵や支えが必要である。 農業協同組合（JA）や水田農業研究所、土地改良区の人たちは、安全でおいしい米づくりのために、農家を支援している。 ⑤	◆ 安全でおいしい米をつくるための団体や組織に目を向けて、庄内平野の米づくりの協力関係に気づけるようにする。 ◆ 米づくり農家を支える人たちの協力関係の意味について理解を深められるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、農家を支える人たちの協力関係について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥おいしい米を全国に P. 86～87 庄内平野の米は、どのように消費者にとどけられるのでしょうか。 (1時間)	○イラストや写真から、カントリーエレベーターの役割を調べる。 ・ 庄内平野の米は、カントリーエレベーターに集められる。 ・ 集めることで作業の効率が高まり、品質もそろふ。 ○庄内平野の米が消費者に届けられるまでの様子や人の働きを調べる。 ・ 米の輸送には、トラックや鉄道、フェリーが使われている。 ・ 米の輸送には多くの人が関わり、輸送や販売には費用がかかる。 ○学習問題や学習計画をふり返り、さらに調べる必要があることがないかを話し合う。 ・ 米の消費量が減ってきたけど、米づくりはこれからどうなるのか。 生産された米は、カントリーエレベーターに保管されたあと、様々な方法で輸送され、消費者に届けられている。米づくりにはいろいろな費用がかかっている。直接消費者に販売する方法をとる農家もある。 ⑥	◆カントリーエレベーターが品質を保つために重要な役割を果たしていることに気づくようにする。 ◆円グラフから、米が消費者に届くまでには、様々な費用がかかることを理解できるようにする。 ◆学習計画では、「米づくりの課題」に関わることは出てこないで、この時間の終末に、一度学習をふり返るようにして、次の学習につなげていく。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習をふり返り、さらに調べるべきことを考え、今後の米づくりについて調べる新たな見通しをもっているか」を評価する。 [知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きや、米づくりにかかる費用について理解しているか」を評価する。
	⑦米づくり農家のかかえる課題と新しい取り組み P. 88～89 これからの米づくりは、どのように進めていくとよいのでしょうか。 (1時間)	○写真やグラフを見て、米づくり農家の抱える課題について調べる。 ・ 米の消費量が減ってきていて、同じように生産量も減ってきている。 ・ 庄内平野でも転作をして、米の他に大豆などを栽培している。 ○写真、グラフと衿津さんの話から、米づくり農家の課題を解決するためにどのような取り組みがあるのか話し合う。 ・ 働く人の数が減ってきているため、農作業を共同で行っている。 ・ 肥料や仕事を減らす工夫をしている。 ・ 消費者との結びつきを深めるため、関東地方の小学校で出前授業を行っている。 米づくり農家は、消費量や農業従事者の減少などの課題を抱えているが、課題解決のために工夫や努力を重ねている。 ⑦	◆なぜ米の生産量と消費量が減ったのかを考え、米づくり農家の課題について理解できるようにする。 ◆米づくりの課題を解決するための農家の取り組みについて、その意味を考えるようにする。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「これからの日本の米づくりについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑧新聞にまとめる P. 90～91	○これまでの学習をふり返って、庄内平野の米づくりに関わる人たちの工夫や努力について話し合う。 庄内平野では、 ・ 自然条件を生かして米づくりをしている。 ・ 生産性を高める工夫をしている。 ・ 消費者のことを考えておいしくて安全な米づくりをしている。 ・ 様々な人が協力している。 ○これまでの学習で調べたことや話し合ったことを新聞にまとめる。 ○新聞の最後に、社説として米づくりについての自分の考えを書く。 ・ 米づくりは日本の食料生産で大変重要。 ・ 米づくりの課題をふまえ、消費者として考えていく。	◆これまでの学習をノートでふり返るようにする。学習計画の段階で新聞にまとめることを計画しているので、毎時間のまとめを新聞の記事としてまとめていくと効率的に新聞を作成できる。 ◆「まなび方コーナー」を活用して作業の進め方を確認し、図や表、写真を入れてわかりやすい新聞にしておく。 ◆社説では、小単元のまとめとして食料生産に関わる人々の働きを生産者や消費者の立場で考えてまとめるようにする。	【知技②】 新聞の記述内容から、「調べたことをまとめて、米づくりがさかんな地域の人々の工夫や努力を理解しているか」を評価する。 【思判表②】 新聞の記述内容から、「米づくりのしくみと農家の工夫や努力を関連付け、農業の働きや役割、発展について多角的に考え、適切に表現しているか」を評価する。
	米づくりに かかわる人々のくふうや努力についてまとめましょう。 (1 時間)	庄内平野で米の生産に関わる人々は、自然条件を生かしたり、生産の工程や輸送方法を工夫したりして、安全でおいしい米を消費者に届けるために努力している。 ⑧		

2－③ 水産業のさかんな地域

7 時間／上 P. 94～107

目標

我が国の水産業について、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、地図や各種の資料で調べ、まとめることで、水産業に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。	①水産業の生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、水産業に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。	①我が国の水産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、我が国の水産業に関わる人々が、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送や販売方法を工夫したりして、良質な水産物を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	②水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考えたり、我が国の水産業の現状をふまえて、水産業の抱える課題を見いだしたりするとともに、これからの水産業の発展において大切なことについて、自らの考えを適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①魚を食べる日本 P. 94～95 わたしたちの食生活と水産業について考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や図、グラフからわかったことを発表し合う。 ・スーパーマーケットでは様々な魚介類を売っている。 ・様々な水産物の加工品がある。 ・日本は世界でも魚介類の消費が多い。 ○日本周辺の海の様子について、調べてわかったことを話し合う。 ・日本のまわりの海には四つの海流が流れている。 ・日本のまわりの海には大陸棚が広がり、暖流と寒流がぶつかるよい漁場となっている。 ○本小單元では、水産業のさかんな地域である鹿児島県の水産業について学習する。	◆普段の生活で様々な種類の魚や魚の加工品を食べていることに気づかせる。 ◆日本周辺の海がよい漁場となっている要因について、海流や海底の形、海の様子から気づかせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「主な国の魚介類の消費量、都道府県別の漁業生産額の割合、日本の周辺の海の様子などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 鹿児島県で水産業にかかわっている人々は、どのように魚をとったり、加工したりして、消費者にとどけているのでしょうか。 ○小単元の学習問題について予想したり、調べることを考えたりして、学習の計画を立てる。 <調べること> ・どのようにして魚をとったり、育てたりしているのか。 ・とった魚はどのようにしてわたしたちに届けられるのか。 ・魚をどのように加工して食品にしているのか。		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「鹿児島県の水産業の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②かつお漁の方法 P. 96～97 水産業にかかわる人々は、どのようにして魚をとっているのでしょうか。 (1 時間)	○写真やイラストから、かつお漁の様子について調べてわかったことをノートにまとめ発表する。 ・かつおは海流に乗って広い範囲の海を群れで移動する。 ・かつおの群れを魚群探知機などを使って探し、漁をしている。 ・かつお漁の方法には一本釣りときき網漁の二つの方法がある。 ○調べてわかったことをもとに、かつお漁の二つの方法のよさを話し合う。 ・一本釣りは、一匹ずつ釣り上げる方法で、新鮮さを保つための工夫がある。 ・きき網漁は、一度に多くのかつおをとることができる。	◆P. 95 の海流の図や P. 97 のかつおの回遊範囲に着目して、かつお漁が行われる範囲の広さに気づかせる。 ◆QR コンテンツ「枕崎漁港の人にインタビュー」を視聴すると、枕崎漁港の実際の様子を映像で捉えることができる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、鹿児島県で行われているかつお漁の方法や様子について理解しているか」を評価する。
		鹿児島県では、遠洋でのかつお漁がさかんである。かつお漁には、一本釣りやきき網漁などの方法があり、魚群探知機で魚の群れを探したり、とった魚をすばやく冷凍したりするなど工夫して漁が行われている。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③枕崎漁港から食卓へ P. 98～99 漁港に水あげされた魚は、どのようにしてわたしたちの食卓へとどくのでしょうか。 (1 時間)	○写真やイラストから、漁港での水揚げから出荷までの様子について調べてわかったことを発表し合う。 ・水揚げされた魚は、種類ごとに分けられ箱づめされたあと、せりにかけられる。 ・せりでは魚の価格が決められている。 ・魚を新鮮なまま運ぶための工夫がある。 ○どのようにせりが行われているか話し合う。 ・魚を買いいたい人は、買いいたい魚と値段について合図している。 ・高い値段をつけた人に魚が売られる。 鹿児島県枕崎の漁港で水揚げされた魚は、魚市場でせりにかけられたのち、全国へ運ばれる。魚を消費者のもとへ届けるまでに、様々な人々に関わることで価格が変動する。③	◆航空写真から漁港の広さやまわりの環境を読み取らせる。 ◆とった魚が消費者に届けられるまでの人々の働きに気づかせる。 ◆魚の値段には様々な費用が含まれていることを確認し、いろいろな人が関わったり、遠くへ運んだりした分、値段が高くなることも予想させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、水揚げされた魚が消費者に届けられるまでの人々の働きについて具体的に理解しているか」を評価する。
	④かつお節をつくる P. 100～101 漁港の周辺では、どのようにして水産加工品がつくられているのでしょうか。 (1 時間)	○写真や本文、かつお節工場の人のお話からかつお節の生産の工夫について調べてわかったことをノートにまとめる。 ・かつお節は300年以上続く、日本の伝統的な水産加工品である。 ・1本のかつお節（本枯節）をつくるのに半年ほどの時間と手間をかけている。 ・かつお節をつくる工程は、手作業も多く、人の手が欠かせない。 ・安心・安全な方法で生産している。 ・工場では外国人の方も多く働いている。 枕崎漁港の近くには、伝統的な水産加工品であるかつお節をつくる工場が数多くある。漁港で水揚げされたかつおを使って、時間と手間をかけてつくられたかつお節は、全国に出荷されている。④	◆地図を見ると、漁港のそばにかつお節工場がたくさんあることから、新鮮な魚を使えることに気づかせる。 ◆水産加工品は、かつお節以外にも様々なものがあることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、かつおを加工してかつお節をつくる人々の工夫や努力について理解しているか」を評価する。
	⑤つくり育てる漁業 P. 102～103 つくり育てる漁業は、どのように行われているのでしょうか。 (1 時間)	○写真や本文、養殖業者の人のお話から、養殖について調べてわかったことをノートにまとめる。 ・かんばち、ぶり、みなみまぐろ、うなぎなど様々な魚種が養殖されている。 ・海水温が年間を通して高く、深くても穏やかな海は養殖に適している。 ・稚魚が成魚になるまで長い時間がかかる。 ・品質を高めるために様々な工夫をして、養殖の魚をブランド化している。 ○育てる漁業は、どのようなことを大切にしているのか、考えたことを話し合う。 ・取ることのできる魚の大きさを決めて、魚の資源を守ろうとしている。 ・魚を卵から稚魚に育てて海に放流したり、岩場や魚のすみかをつくったりして、魚の数を増やそうとしている。 鹿児島県では、かんばちやぶり、うなぎなどの魚の養殖がさかんである。また魚のとりすぎで水産資源が減らないように、魚をとる際の決まりをつくったり、栽培漁業にも取り組んだりしている。⑤	◆漁業協同組合の人の話から、魚の品質を高めるための工夫や努力に気づかせる。 ◆つくり育てる漁業で働く人たちの姿を通して、水産資源を守ることの大切さを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「養殖や栽培漁業に取り組んでいる人々が、つくり育てる漁業に取り組んでいることの意味について考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥日本の水産業がかかえる課題 P. 104～105 日本の水産業には、どのような課題があるのでしょうか。 (1 時間)	○地図とグラフから、日本の水産業の現状について調べ、水産業の課題だということをノートにまとめ発表し合う。 - 日本の漁業生産量は世界でも非常に大きい。 - 遠洋、沖合、沿岸漁業の漁業別生産量は年々減少している。 - 漁業で働く人数も年々減っている。 - 排他的経済水域によって各国は自国の水産資源を守ろうとしている。 日本では排他的経済水域の影響もあり、遠洋漁業や沖合漁業の生産量が減っている。漁業で働く人の数も減っていて、水産業の課題を解決していく必要がある。⑥	◆漁業別の生産量の変化と水産物の輸入量の変化のグラフを比較して考えさせる。 ◆漁業で働く人数の変化のグラフと学習してきたことを関連付けて、水産業の課題を見いだすよう考えさせる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習をふり返し、さらに調べるべきことを考え、日本の水産業が抱えている課題を調べる見通しをもっているか」を評価する。 【思判表①】 ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の水産業が抱える課題について、調べたことを関連づけて考え表現しているか」を評価する。
	⑦プレゼンテーションソフトを使ってまとめる P. 106～107 水産業がさかんな地域の人たちのくふうや努力についてまとめましょう。 (1 時間)	○これまで学習したことをふり返し、プレゼンテーションソフトを使ってまとめる。 - 日本は豊富な水産資源に恵まれて、魚の消費量も多い。 - かつおをとる漁法には一本釣りともき網漁があり、とれた魚の新鮮さを保つ工夫がある。 - かつお節の工場では、手間と時間をかけてかつお節を生産している。 - つくり育てる漁業では、水産資源を守りながら、品質のよい魚を育てる工夫をしている。 ○まとめた作品をもとに、これからの水産業について考えたことを話し合う。 - 漁業で働く人を増やすための取り組みが大切だと思う。 - 魚介類や水産加工品の消費が増えることが水産業の発展につながるのではないかな。 我が国の水産業は、自然条件を生かして営まれており、水産業に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えている。⑦	◆プレゼンテーションソフトの使い方を確認し、まとめる際に必要な資料などは端末で共有できるようにしておく。QR コンテンツ「まとめるワークシート」をプレゼンテーションのテンプレートとして使用してもよい。 ◆児童の作品は、クラス全体で確認できるように映示したり、端末で共有したりする。 ◆学習してきたことを生かして、これからの水産業について考えるよう促す。	【知技②】 プレゼンテーションの内容から、「調べたことをまとめ、水産業がさかんな地域の人々の工夫や努力により、消費者に魚が届けられ、食料生産を支えていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 プレゼンテーションや発言内容から、「水産業に関わる人々の工夫や努力、水産業の抱える課題について考え、適切に表現しているか」を評価する。

2－④ これからの食料生産とわたしたち

4 時間／上 P. 114～121

目標

我が国の農業や水産業における食料生産について、食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安心・安全への取り組みなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで食料生産の課題を捉え、食の安心・安全の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの農業などの発展について考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安心・安全への取り組みなどについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の課題を理解している。	①食料自給率や輸入など外国との関わり、食の安心・安全への取り組みなどに着目して、問いを見だし、食料生産の課題について考え表現している。	①これからの食料生産について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、食の安心・安全の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解している。	②食料自給率と食生活の変化を関連付けたり、食料生産について学習してきたことを総合したりして食料生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの農業や水産業の発展について考え表現している。	②学習したことをもとに、これからの農業や水産業などの発展について考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	②日本の食料生産をめぐる課題 P. 114～115 食料生産の課題について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○農業や水産業の学習をふり返し、どのような課題を抱えていたか話し合う。 ・米の生産量が消費量を上回り米が余るようになってきた。 ・水産業ではとれる魚が少なくなり、輸入しているものもあった。 ・農業も水産業も働く人が減少している。 ○日本と主な国の食料自給率を調べ、疑問に思うことを話し合い、学習問題をつくる。 ・日本は食料の多くを輸入に頼っている。 ・小麦や大豆のほとんどを輸入している。 ・1970年に比べ、自給率が約3分の2に減っている。	◆教科書やノートをもとに農業や水産業の学習をふり返らせる。 ◆自給率の変化に着目させて、疑問に思うことを発表させる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「食料自給率や輸入などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 日本の食料生産にはどのような課題があり、これからの食料生産をどのように進めたらよいのでしょうか。 ○小単元の学習問題について予想を立てたり、これからの食料生産について調べることを考えたりして、学習の計画を立てる。 <調べること> ・食生活の変化による、食料生産への影響 ・どのようにして食料の安心・安全が守られているのか。 ・食料はどのようにして安定的に確保されているのか。		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の食料生産をめぐる課題について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②わたしたちの食生活の変化と食料自給 P. 116～117 食生活の変化は、食料自給にどのようなえいきょうをあたえているのでしょうか。 (1 時間)	○写真を見ながら、毎日の食生活について話し合う。 ・朝はパン食が多い。 ・ハンバーグやカレーなど、肉を使った食べ物が多い。 ○食生活の変化や食料品別の輸入量の変化を調べる。 ・1960年度と比べ、米の消費量が減り、肉やその加工品、乳製品などの畜産物が増え、食生活は豊かになっている。 ・増えた食料品の多くは輸入に頼っている。 ○調べたことを関連付け、食生活の変化が食料生産や食料の輸入に与えている影響を考え、話し合う。 ・食生活が変化し、小麦や乳製品などがたくさん輸入されるようになった。 ・食生活は豊かになったが、輸入食料品が増え、食料自給率は下がっている。 ・食料廃棄の多さも問題になっている。 和食や洋食など食生活の多様化が進む中で、我が国は多くの食料を輸入に頼るようになっている。その一方で、食料が大量に廃棄されるなどの問題も生じている。 ②	◆家庭での食生活や給食のメニューなどから考えさせるようにする。 ◆いつごろからどのような食料品が増えているか考えさせる。 ◆調べる段階で、資料2からわかったことを関連付け、食生活の変化とその影響を考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「食生活が多様化してきたことや、それに伴う食料自給に関する課題を考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③食の安心・安全への取り組み P. 118～119 食の安心・安全に対する取り組みは、どのように行われているのでしょうか。 (1 時間)	○写真や食の安全に関する意識調査、食品の生産や販売における取り組みで知っていること、輸入食品で問題になること等を話し合う。 ・消費者は安全性や品質を求めている。 ・生産者の顔が見える野菜がスーパーマーケットで売られている。 ・輸出国で農産物が不作になれば日本に輸入できなかつたり、農薬がどう使われているかわかりにくかつたりするのではないか。 ○スーパーマーケットの店長さんや検疫所で働く人の話をもとに、食の安心・安全のための取り組みとそのよさを調べる。 ・トレーサビリティにより食品の情報管理が行われている。 ・検疫所での点検により、輸入食品の衛生管理が行われ、法律の基準に合格した食品が輸入されている。 ○食料の輸入に伴う課題が他にないか調べて話し合う。 ・輸入のための輸送では、たくさんの石油が使われている。 消費者の食の安心・安全への関心が高まり、スーパーマーケットなどではトレーサビリティの取り組み、検疫所では輸入食品の検査などの取り組みを行い、食の安心・安全の確保に努めている。 ③	◆写真やグラフからわかることを丁寧に引き出し、食の安心・安全と食料輸入における課題について関心を高める。 ◆自分たちはどのような食品なら安心して食べられるかを考えさせながら、安心・安全の確保のための工夫やしくみに着目させる。 ◆食料品の輸入のために多くの燃料が輸送に使われていることにも気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、食の安心・安全への取り組みについて理解しているか」を評価する。
	④食料を安定して確保する P. 120 食料を安定して確保し続けるためには、どのようなことが大切になるのでしょうか。 (1/2 時間)	○これまでの学習や資料 2 から、食料を安定して確保する上で課題となることを話し合う。 ・農業や林業、水産業で働く人が減っている。 ・畑や田の面積も減っていて、食料の生産が減っていくのではないかな。 ○農業協同組合の人の話や新たな農業の取り組みから、食料の安定確保において大切なことを話し合う。 ・国産のものや自分の住んでいる地域でとれるものを食べることで、農業で働く人を支えることが大切。 ・農業で働く人を増やすために、会社のように働きやすくするしくみがある。 多くの食料を輸入に頼る我が国では、食料を安定的に確保していくことや農業で働く人の数を増やすことが大切であり、地産地消や農業法人などの取り組みが進められている。 ④-1	◆農業や水産業の学習と関連付けて考えさせる。 ◆地域での取り組みや農業法人の取り組みに着目し、食料を安定して確保するために大切だと思うことを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、食料を安定して確保するために、地産地消や農業法人の取り組みが進められており、農業の発展を支え食料自給率を高めることが大切であることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	④意見文にまとめる P. 121 これまで調べたことをもとに、これからの食料生産についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○これまでに調べたことをカードに書き、黒板や端末のアプリなどを使って分類する。 ・日本の食料生産が抱える課題 ・食の安心・安全の取り組み ・食料を安定して確保する上で大切なこと ○分類したカードを見て、これからの食料生産で大切だと思うことを発表し合う。 ・日本の食料自給率を上げることや農業や水産業の働き手を増やすことが大切。 ・食料自給率が上がると、農業や水産業が活発になる。 ・地産地消の取り組みにも進んで参加することが大切。 ・日本は輸入食料品が多い。食の安心・安全にも気をつけることが大切。 ○話し合ったことをもとに、これからの日本の食料生産について大切に思うことを各自ノートにまとめる。 食料の多くを輸入に依存する我が国では、食の安心・安全の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題になっており、食料自給率を上げることが大切である。 ④-2	◆カードはグループごとに作成するなど工夫をする。また黒板に貼る際には、重複したものを重ねるなどする。 ◆我が国の食料生産・食料確保の現状をふまえ、これから大切だと思うことをノートにまとめさせる。	【知技②】 意見文の記述内容から、「食の安心・安全の確保、持続可能な食料生産・食料確保が重要な課題であることや、食料自給率を上げることが大切であることを理解しているか」を評価する。
	①食料生産の新たな取り組み P. 122～123 新しい食料生産のくふうをしようかいし合い、これからの食料生産について考えましょう。 (1 時間)	○事例として紹介されている食料生産の新たな取り組みの特徴を、グループ内で分担して調べ、発表し合う。 ・生産、加工、販売までを自分たちで行う6次産業化の取り組み ・えさを工夫して畜産物の価値を高める取り組み ・持続可能な漁業を進める取り組み ・最新の技術を使ったスマート農業 ○このほか自分たちの県や市の農業や水産業の新たな取り組みについて、インターネット等を利用して調べる。 ○これからの食料生産に対する考えをノートに文章でまとめる。 ・消費者は、安さや安全だけでなく、手間をかけた品質の高いものも求めている。 ・消費者の願いに応えながら、食料生産の発展に向けた新しい取り組みが行われている。 生産者は消費者の声に応えながら、生産物の価値を高めたり、最新の技術を取り入れて生産したりするなど、食料生産の発展に向けた新しい取り組みを進めている。 ①	◆県や市の取り組みについては、利用可能なホームページや資料を教師が確認し準備しておく。もし該当する取り組みがない場合は、一つ目の活動をインターネット等を使って詳しく調べるなど工夫する。 ◆生産者や消費者の立場から考えるように助言する。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「食料生産について学習してきたことを総合して、これからの農業などの発展について考え、適切に表現しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容から、「学習したことをもとに、これからの農業や水産業などの発展について考えようとしているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	工業は、わたしたちの生活に、どのようにかかわっているのでしょうか。 (1時間)	○身のまわりの工業製品について、気づいたことを話し合う。 ・家に、冷蔵庫や電子レンジなどの電化製品がある。 ・ノートやパソコンなど学校で使うものにも工業製品があるのではないかな。 ○これまでの学習をふり返ったり、身のまわりの工業製品について考えたりしながら、工業製品と生活との関わりについて話し合う。 ・3年の昔の道具の学習では、洗濯機ができて便利になったことを学んだ。 ・身のまわりの工業製品は、どのようにつくられているのかな。 単元のめあて わたしたちの生活を支える工業製品は、どのようにしてつくられているのでしょうか。	◆様々な工業製品が、あらゆる生活の場面を支える重要な役割を果たしていることに気づくようにする。 ◆過去と現在の比較から、工業製品がくらしの向上につながってきたことに気づくようにする。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「身のまわりの工業製品から、工業生産について関心を高めているか」を評価する。

目標

我が国の工業生産について、工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業のさかんな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の概要を理解している。	①工業の種類、工業のさかんな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、問いを見いだし、工業生産の概要について考え表現している。	①工業生産の概要について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業のさかんな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解している。		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①わたしたちの生活に役立つ工業製品 P. 4 身のまわりにある工業製品について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1/2 時間)	○身のまわりの工業製品を持ち寄り、それぞれの特徴を考えながら分類する。 ・機械もあれば、食料品もある。 ・金属、プラスチック、繊維などでできたものもある。 学習問題 わたしたちの生活を支えている工業製品は、どこでつくられているのでしょうか。 ○学習計画を立てる。 ・工業製品の種類や、どこで生産されているか調べたい。 ・日本ではどんな種類の工業がさかんなのか調べたい。 ・工業生産がさかんな地域は日本のどのあたりにあるのか調べたい。	◆工業製品を分類する活動の中で、それぞれの製品がどこでつくられたのかについて疑問をもたせていく。	[愚判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「工業の種類に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
	①日本各地でつくられている工業製品 P. 5 身のまわりの工業製品は、どこでつくられているのでしょうか。 (1/2 時間)	○分類した工業製品がつくられた場所を調べて、発表し合うとともに、日本地図に産地の印をつけてまとめる。 ・写真の船は、広島県呉市でつくられた。 ・音楽室にあるピアノは、静岡県掛川市でつくられた。 ・家で使っている掃除機は、茨城県日立市でつくられた。 日本では、各地で様々な工業がさかんに営まれている。 ①－2	◆それぞれの工業製品の箱やシールに記載されている生産された場所に注目させたい。 ◆工業製品の分類の際は、QRコンテンツ「工業製品を分類してみよう」を活用できる。また、様々な工業製品が日本各地で生産されていることを児童が実感できるように、ICT端末を活用したり、実物を用意したりしておきたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の各地で様々な工業製品がつくられていることについて理解しているか」を評価する。
調べる	②工業がさかんな地域の分布と特色 P. 6～7 工業がさかんな地域は、どのように広がっているのでしょうか。 (1 時間)	○資料1のグラフと地図を読み取り、日本の工業生産のさかんな地域について気づいたことを話し合う。 ・日本では、全国各地に工場が分布しているが、特に太平洋側の海沿いの地域に広がっている。 ・太平洋ベルトの工業生産額は、日本全体の2分の1以上を占める。 ○工業がさかんな地域の広がりには、どのようなことが関係しているのかについて話し合う。 ・工業のさかんな地域が海沿いに多いのは、材料や製品の輸送が便利だからではないか。	◆工業がさかんな地域の生産額を表すグラフと広がりを示す地図を関連付けながら考えさせるようにする。 ◆工業生産に不可欠な原材料や製品の輸送・交通の重要性を考えさせるために、船や高速道路、海をはさんでの海外との結びつき、工場で働く人々（労働力）にも着目させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の工業地域や工業地帯の分布の特色について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		・ 高速道路が全国に広がり、内陸でも工業がさかんな地域が増えてきたのではないかな。 日本では、全国各地に工場が分布している。工業生産がさかんな地域は工業地域や工業地帯と呼ばれ、太平洋ベルトを中心に海沿いに広がっている一方で、内陸部にも分布している。 ②		
	③日本の工業生産の特色 P. 8 日本の工業生産には、どのような特色があるのでしょうか。 (1/2 時間)	○資料 1 と資料 2 の二つのグラフを読み取り、日本の工業生産について気づいたことを話し合う。 ・ 日本の工場のほとんどが中小工場で、たくさんの人が働いている。 ・ 大工場数は少ないが、工業生産額では半分以上を占めている。 日本の工場は大工場と中小工場からなり、工場の多くは中小工場でたくさんの人が働いているが、生産額は半分以上を大工場が占めている。現在の日本の工業は機械工業がさかんである。 ③-1	◆帯グラフの読み取りについては「まなび方コーナー」を参照する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、大工場と中小工場の割合や中心となる工業など、日本の工業生産の概要について理解しているか」を評価する。
まとめる	③ノートにまとめる P. 9 日本の工業のさかんな地域の特色をまとめましょう。 (1/2 時間)	○日本の工業生産と工業のさかんな地域の特色について、わかったことや考えたことをノートにまとめる。 〈工業のさかんな地域〉 ・ 太平洋の海沿いに工業のさかんな地域が広がり、太平洋ベルトと呼ばれている。 ・ 高速道路の発達により、関東内陸工業地域など内陸部にも工業のさかんな地域がある。 〈工業生産の特色〉 ・ 工場数はほとんどが中小工場だが、生産額では、半分以上を大工場が占めている。 ・ 昔は繊維工業がさかんだったが、現在は機械工業の割合が多い。 日本では様々な種類の工業が営まれており、太平洋ベルトをはじめとして、全国各地に工業のさかんな地域が分布している。 ③-2	◆これまで学んだ「ことば」を使いながら、調べてわかったことについてまとめるとともに、日本の工業の特色について自分の考えを表現させる。	【知技②】 ノートの記述内容から、「我が国では様々な工業生産が行われていることや、工業のさかんな地域が広がっていることを理解しているか」を評価する。

目標

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。	①自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見いだし、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。	①自動車生産について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解している。	②自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本の自動車工業 P. 10～11 わたしたちの生活や産業を支える自動車は、どのような地域でつくられているのでしょうか。 (1 時間)	○写真とグラフから、日本の工業生産について話し合う。 ・機械工業がさかんである。 ・輸送用機械の割合が高く、自動車づくりがさかんである。 ・年間約700万台の自動車を生産している。 ・愛知県豊田市には自動車工場がたくさんある。 日本は自動車の生産がさかんであり、愛知県豊田市には、多くの自動車をつくる工場が広がっている。①	◆日本の工業生産では、自動車工業がさかんであることに気づかせる。 ◆愛知県豊田市には、自動車工場が多く分布していることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本は自動車工業がさかんであることを理解しているか」を評価する。
	②さかんな自動車工業 P. 12～13 自動車づくりについて話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 (1 時間)	○自動車の年間生産台数や部品数から自動車生産について話し合い、学習問題をつくる。 ・ある自動車会社では年間約270万台の自動車をつくっている。 ・自動車は、お客さんからの注文に合わせてつくっている。 ・1台の自動車に使われている部品は約3万個ある。 ・たくさんの自動車をどのようにつくっているのだろうか。 学習問題 自動車づくりにたずさわる人々は、よりよい自動車をたくさんつくるために、どのようなくふうや努力をしているのでしょうか。	◆たくさんの自動車をお客さんの注文に合わせ、素早くつくっているという事実から問題意識をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「自動車の製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。
		○予想を出し合い、学習計画を立てる。 <調べること> ・自動車工場での自動車のつくり方 ・関連工場での部品のつくり方 ・完成した自動車の運び方	◆学習の見通しをもてるようにする。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「自動車づくりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③自動車を組み立てる工場 P. 14～15 組み立て工場で働く人々は、どのように自動車をつくっているのでしょうか。 (1 時間)	○組み立て工場の工程について調べる。 ・自動車づくりは、プレス、溶接、塗装、組み立て、検査という流れで行われている。 ・各工程で多くの作業をしている。 ○QRコンテンツ「組み立て工場の人にインタビュー」から、多くの作業をしながら、注文に合わせて自動車を生産するための工夫を読み取り、話し合う。 ・ロボットや機械を使い、すばやくたくさんの自動車をつくっている。 ・指示ビラを見ながら作業をすることで、注文に合わせた自動車をつくっている。 ・必要な時に必要な部品を注文し、無駄な部品がないようにしている。 組み立て工場では、すばやく、正確に、効率よく自動車をつくっている。③	◆各工程で多くの作業をしていることに気づかせる。 ◆手作業だけでなく産業用ロボットなどを活用したオートメーションなど大規模工場の生産システムによって、「すばやく」「正確に」「効率よく」作業が進められていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、組み立て工場の工程や工夫について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④自動車の部品をつくる工場 P. 16～17 関連工場で働く人々は、どのようにして自動車の部品をつくられているのでしょうか。 (1 時間)	○調べてわかったことを発表する。 ・組み立て工場からの注文に合わせてシートをつくっている。 ・組み立て工場と組み立てる車種の順番通りに並べ、トラックで運んでいる。 ・シートに使われる部品は、他の関連工場で作られている。 ○組み立て工場と関連工場のつながりについて話し合う。 ・組み立て工場と関連工場は一つの工場のように協力して自動車をつくっている。 ・どこか一つの関連工場が生産できなくなると、自動車がつくれなくなってしまうこともある。 関連工場の人々は、組み立て工場からの注文に合わせて部品をつくり、組み立て工場の人々と協力して自動車を生産している。 ④	◆関連工場では、組み立て工場からの注文に合わせ納期（時間）を意識して生産していることに気づかせる。 ◆シート工場の下には、シートに使われる部品をつくる工場があることに着目させ、関連工場の役割について考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、関連工場の様子や組み立て工場と関連工場のつながりについて理解しているか」を評価する。
	⑤世界とつながる自動車 P. 18～19 完成した自動車は、どのようにして消費者にとどけられるのでしょうか。 (1 時間)	○調べてわかったことを発表する。 ・完成した自動車は、キャリアカーで国内の販売店や港に運ばれる。 ・海外に船で運ばれる自動車もある。 ・自動車の価格には輸送費なども含まれる。 ・現地生産でつくられる自動車もある。 ○現地生産のよさについて話し合う。 ・輸送する費用や時間を抑えることができる。 ・その国の消費者のくらしや好みに合わせた自動車をつくることができる。 完成した自動車は、キャリアカーや船で国内や国外に輸送される。また、輸送費を抑え、外国の人に合わせた自動車をつくるために現地生産もしている。 ⑤	◆自動車の輸送方法や価格に着目させる。 ◆グラフから、自動車の現地生産が増加していることや、海外での販売数の割合が大きいことに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、完成した自動車を世界中に届ける運輸や現地生産などの外国とのつながりについて理解しているか」を評価する。
	⑥人々の願いに合わせた自動車開発 P. 20～21 新しい自動車は、どのように生み出されているのでしょうか。 (1 時間)	○これからの自動車づくりについて、消費者の願いを話し合う。 ・自動車は時代とともに変化してきている。 ・安全性や環境への配慮などが求められている。 ○現在、開発されている自動車の技術について調べる。 ・燃料電池自動車 ・電気自動車 ・福祉車両 ・自動運転技術 ・衝突安全ボディ ・エアバッグ ○消費者の願いと自動車の技術の関係について話し合う。 ・消費者の願いに合わせた自動車の技術開発が進められてきている。 ・ある自動車会社では、新しいくらしの可能性を実証するまちをつくっている。 自動車会社は、消費者の要望や社会の動きに合わせて、よりよい製品を生み出している。 ⑥	◆様々な立場から消費者の願いを考えさせる。 ◆自動車会社のホームページやパンフレットなどからも自動車の技術について調べることができる。 ◆消費者の願いと自動車の技術開発が結び付いていることに気づかせる。 ◆現在も、未来も社会の要請に合わせた工業製品の開発を目指し、工夫や努力をしていることに気づかせる。	[態度①] 発言内容から、「これまでの学習をふり返し、さらに調べるべきことを考え、これからの自動車づくりについて調べる見通しをもっているか」を評価する。 [知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「自動車の技術開発は、消費者の願いに合わせて行われているということを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦CMにまとめる P. 22～23	○これまで学習したことをふり返る。 ・組み立て工場では、すばやく、正確に、効率よく自動車をつくっている。 ・関連工場では、組み立て工場の人々と協力して自動車を生産している。 ・完成した自動車は、国内外に輸送される。また、現地生産も行っている。 ・自動車会社は、消費者の需要や社会の変化に対応して、よりよい製品を生み出している。	◆自動車を生産するうえでの工夫や努力を挙げさせ、まとめていく。	[知技②] 作成したCMの内容や発言内容から、「自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発表の内容から、「自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現しているか」を評価する。
	これまでの学習をふり返り、日本の自動車づくりのよさをまとめましょう。 (1時間)	○なぜ、たくさんの工夫や努力をしているのか話し合う。 ・たくさんの工夫や努力は、消費者の需要や社会の変化に対応するためである。 自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えている。 ⑦ ○日本の自動車づくりのよさをCMにまとめる。 ・調べてわかった工夫や努力の中から消費者に伝えたいものを選ぶ。 ・キャッチコピーを考える。 ・絵コンテに絵や内容、ナレーションを入れる。 ・友達と紹介し合う。	◆工夫や努力の意味や価値について考えさせる。 ◆児童一人一人が大切だと感じた工夫や努力を取り上げさせ、その意味や価値が伝わるようにCMにまとめさせる。	

目標

我が国の工業生産について、輸送網(交通網)の広がり、外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①輸送網の広がり、外国との関わりなどについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、貿易や運輸の様子を理解している。	①輸送網の広がり、外国との関わりなどに着目して、問いを見いだし、貿易や運輸の様子について考え表現している。	①工業生産における貿易や運輸について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解している。	②工業生産と貿易や運輸の働きを関連付けて貿易や運輸が工業生産に果たす役割を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①工業製品の輸送と日本の貿易 P. 30～31 日本の運輸や貿易について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○自動車工業の学習をふり返り、輸送との関わりを話し合う。 ・部品は関連工場で作られ、組み立て工場に運ばれる。 ・自動車はトラックや船で運ばれる。 ・空輸される工業製品もあるのではないかな。 ○工業に関わる貿易について話し合い、運輸との関連をもとに学習問題をつくる。 ・空港の貿易額が多い。 ・工業地帯にある港で輸出入が行われているようだ。	◆地図帳や地球儀、写真 (P. 30～31) などを活用し、どのような工業製品が、どのような方法で運ばれているのかに着目して、運輸や貿易と日本の工業生産との関わりを予想させる。 ◆QRコンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、運輸や貿易の働きに関心を持たせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「交通の広がりや外国との関わりなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「工業生産を支える運輸や貿易の働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 運輸や貿易は、日本の工業生産をどのように支えているのでしょうか。		
調べる	②全国へ運ばれる工業製品 P. 32～33 工場で作られた工業製品は、どのように運ばれているのでしょうか。 (1 時間)	○資料2「京浜トラックターミナルのまわり」や7「日本の主な輸送もう」の地図などから、工業製品の輸送手段を調べる。 ・トラックターミナルの周辺には様々な輸送手段がある。 ・工場で作られた工業製品は、様々な輸送手段を使って運ばれる。 ○工業生産における輸送の役割を話し合う。 ・輸送する工業製品の種類や量、輸送する場所によって輸送手段を使い分けたり、組み合わせたりしている。 ・運輸は、各地に工業製品を運ぶなど、重要な役割を果たしている。 工業製品は、製品の種類や量、輸送する場所によってトラックや鉄道、船、飛行機などを使い分けながら各地に輸送されている。②	◆P. 6「工業がさかんな地域の分布と特色」をふり返りながら、輸送網の広がりに着目して、運輸と工業生産との関わりを考えさせるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の工業生産における運輸の働きや輸送網の広がりについて理解しているか」を評価する。
	③日本の輸入の特色 P. 34～35 日本は、どこから、どのようなものを輸入しているのでしょうか。 (1 時間)	○資料1「主な輸入品の輸入相手国」や2「輸入量と国内生産量のわりあい」などから、日本が輸入している品目と相手国を調べる。 ・オーストラリアやサウジアラビアをはじめ、世界中から輸入している。 ・石油や石炭、天然ガス、鉄鉱石など燃料や原材料を輸入している。 ○資料3「主な輸入品の取りあつかい額のわりあいの変化」をもとに、日本の輸入の特色について気づいたことを話し合う。 ・機械類の割合が高まっている。	◆時間的な変化があまりないものと大きく変化しているものに着目して輸入の特色を考えるようにさせる。 ◆「まなび方コーナー」をもとに、種類ごとの割合の変化を比べさせるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の輸入の特色について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		アジア地域で生産された安くて品質のよい工業製品が輸入されている。 日本は、工業製品に必要な燃料や原材料だけでなく、国内ではつくれないものや国内よりも安くつくれる製品を輸入している。 ③		
	④日本の輸出の特色 P. 36～37 日本は、どこへ、どのようなものを輸出しているのでしょうか。 (1 時間)	○資料1「主な輸出品の輸出相手国」から日本が輸出している品目と相手国を調べる。 - 中国やアメリカをはじめとして世界中に輸出している。 - 自動車、鉄鋼、集積回路など高い技術に支えられた製品が輸出されている。 ○資料2「主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」をもとに、日本の輸出の特色について気づいたことを話し合う。 - 昔は繊維が多かったが、1970年代からは機械類が多くなった。 - 海外に進出する企業が増え、現地生産も多くなってきた。 日本は、輸入した原材料をもとにして高い技術で生産した製品を外国に輸出している。また、輸出するだけでなく、海外での現地生産も増加している。 ④	◆時間的な変化があまりないものと大きく変化しているものに着目して輸出の特色を考えるようにさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、日本の輸出の特色について理解しているか」を評価する。
	⑤これからの社会に向けて P. 38 資源を多く輸入している日本では、これからのためにどのような取り組みが進められているのでしょうか。 (1/2 時間)	○写真資料などから、資源の多くを輸入に頼っている状況での日本の新しい取り組みについて調べる。 - 再生可能エネルギーの開発が広がっている。 - 世界との良好な結びつきを大切にする。 資源の多くを輸入している日本は、世界との良好な結びつきを大切にしながら、再生可能エネルギーの開発など輸入にばかり頼らない取り組みを進めることが必要である。 ⑤-1	◆P. 37「主な輸出品の取りあつかい額のわりあいの変化」に見られる輸出額の増大が、燃料や原材料の輸入によってもたらされていることに着目して、日本の新たな取り組みの意味を考えさせるようにする。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本が燃料や原材料の多くを輸入している現状をふまえた新たな取り組みを行っていることについて考え表現しているか」を評価する。
まとめる	⑤キャッチフレーズにまとめる P. 39 運輸や貿易が、日本の工業生産に果たす役割についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○これまでの学習をふり返り、「運輸」や「貿易」と「日本の工業生産」との関わりを話し合う。 - 運輸の働きが全国に広がっているから、輸入した原材料や生産した工業製品を各地で使うことができる。 - 資源が少ない日本は、貿易で原材料を確保している。 ○工業生産における「運輸」「貿易」について重要だと思ったことをキャッチフレーズにまとめる。 (例)「原材料から製品を生み出す日本の貿易」…日本は原材料を輸入し、製品を輸出することで工業生産が成り立っている。	◆これまでの学習をふり返り、工業生産に果たす「運輸」「貿易」の働きに着目して、話し合わせるようにする。 ◆「日本の工業生産を支える」という観点から、自分が重要だと感じたことを書かせる。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「運輸や貿易は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「工業生産と運輸や貿易の働きを関連付けて、貿易や運輸が工業生産に

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		運輸や貿易は、工業製品を各地に届けた り、日本の工業生産に必要な燃料や原材 料を確保したりするなど、工業生産にと って重要な役割を果たしている。⑤－２		果たす役割を考え、適切に表現しているか」を評価する。

目標

我が国の工業生産について、伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで工業生産の課題を捉え、工業生産の発展と国民生活との関連を考え、表現することを通して、燃料や原材料の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの工業の発展について考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の課題を理解している。	①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、問いを見いだし、技術を生かし発展する工業生産の課題について考え表現している	①これからの工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、燃料や原材料の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解している。	②工業生産について学習してきたことを総合して工業生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について考え表現している。	②学習したことをもとに、これからの工業の発展について考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本の工業生産の課題 P. 40～41 日本の工業生産の課題について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○日本の工業の課題について話し合う。 ・資源を輸入に頼っているので、資源の確保を考える必要がある。 ・製造業の人口が減っていて、国内生産ができなくなるのではないかな。 ・輸入品によって国産品に影響が出てしまうのではないかな。 ○中小工場の役割について話し合い、学習問題をつくる。 ・繊維工業や食料品工業をはじめ中小工場の生産額が多い。 ・中小工場には特色があるのではないかな。	◆「自動車工業」や「運輸と貿易」などの学習をふり返り、日本の工業生産の課題を考えさせる。 ◆自動車工業の学習をふり返り、関連工場の役割を考える中で、中小工場には大工場とは違った特色があることに気づかせるようにする。 ◆QRコンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、日本の工業生産の課題に関心をもたせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の工業生産の課題に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「日本の工業生産の課題について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 日本の工業生産は、すぐれた技術をどのように生かし、発展していこうとしているのでしょうか。		
調べる	②昔から伝わる技術を生かした工業生産 P. 42～43 昔から伝わる技術をどのように工業生産に生かしているのでしょうか。 (1 時間)	○「めがね協会の小松原さんの話」をもとに、日本各地の伝統を生かした工業生産を調べ、伝統的な技術をどのように生かしているのかを話し合う。 ・めがね枠の国内生産の90%以上が福井県で、その中心となる鯖江市では地域ブランドをつくっている。 ・有田焼や高岡銅器、堺打刃物など、専門的な優れた技術を職人が受け継いでいる。 伝統的な工業では、昔から伝わる技術を守りながら地域ブランドとしたり、伝統的な技術を生かして新しい製品を開発したりしている。 ②	◆ICTなどを活用しながら、全国各地の伝統を生かした工業を調べ、生産された場所に注目させる。 ◆「めがねづくり」「有田焼」「高岡銅器」「堺打刃物」などに見られる、他の地域には真似できない高い技術に着目して、「地域ブランド」の意味を考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、伝統を生かした工業の様子について理解しているか」を評価する。
	③高い技術を生かした工業生産 P. 44～45 ものづくりのまち大田区がほこる技術は、どのようなものなのでしょうか。 (1 時間)	○「富永さんの話」「田中さんの話」などから大田区での工業生産を調べ、他地域との違いについて話し合う。 ・富永さんたちは「しぼり」という技術で大きなアンテナなどをつくっている。 ・田中さんたちは、近くの工場どうして協力して高い品質の製品をつくっている。 ・世界でも大田区でしかできない「オンリーワン」の製品をつくっている。 大田区の工場では、その工場でしかできない技術を発揮したり、工場どうして技術をもち寄るなどの協力をしたりして、国内外で評価されるような製品をつくっている。 ③	◆富永さんの工場や田中さんたちの製品づくりに見られる高い技術や技術の持ち寄り（仲間まわし）に着目して、「オンリーワン」の意味を考えさせるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、中小工場の優れた技術について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④新しい工業生産の取り組み P. 46 日本の工業生産では、どのような新しい取り組みが行われているのでしょうか。 (1/2 時間)	○写真資料などから、日本の工業生産の新しい取り組みについて調べる。 ・人口減少の中、ロボットが開発されている。 ・品質の高い製品を海外に輸出している。 日本の工業生産では、働く人の確保や環境への配慮など、持続可能な社会を目指して、新しい技術やしくみを発展させていくことが求められている。 ④-1	◆「資源確保」「人口減少」「環境への配慮」に着目して、新たな取り組みが持続可能な社会づくりにつながっていることに気づかせるようにする。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「学習したことをもとに日本の工業生産の新しい取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	④話し合ってノートにまとめる P. 47 すぐれた技術を生かす日本の工業生産についてまとめましょう。 (1/2 時間)	○これまでの学習をふり返って、日本の工業生産は優れた技術をどのように生かし、発展していこうとしているのかを話し合い、自分の考えたことをノートにまとめる。 ・(例) 日本の工業は高い技術があるので、困っている人を助ける製品づくりが日本の工業の発展につながる。 日本の工業生産は、資源の確保や人口減少などの課題があるなか、高い技術や伝統的な技術を生かしたり、工場どうしが技術をもち寄って製品をつくったりするなど、国内外で評価される取り組みを行って発展していこうとしている。 ④-2	◆これまでの学習をふり返り、「地域ブランド」「持続可能な社会」などが示す意味に着目して、優れた技術を生かす日本の工業生産について、話し合わせるようにする。	[知技②] ノートの記事内容から、「日本の工業生産は、伝統や高い技術を生かし、新しい技術を開発しながら発展しようとしていることを理解しているか」を評価する。
単元全体のいかす	①これからの工業生産の発展に向けて P. 48~49 これからの日本の工業生産の発展のために、大切だと思うことを話し合いましょう。 (1 時間)	○これまでの「日本の工業生産」の学習をふり返って、これからの日本の工業の発展に向けて何を大切にしたいかを話し合う。 ・消費者の願いに応える工業製品づくりが大切。 ・資源の少ない日本は、世界の国々との良好な結びつきを大切にしなければならない。 ○これからの工業生産のために大切だと思うことをランキングにして表現する。 ・(例) 「製品づくりの資源の確保」が最も大切。資源を確保しないことには日本の工業生産は何も行うことができなくなる。 ・(例) 「人に役立つ製品づくり」が最も大切。社会の課題を解決するような製品づくりによって信頼が高まる。 日本の工業生産がこれからも発展していくためには、「消費者の願い」「高い技術」「環境への配慮」「資源確保」など、様々な視点から工業のあり方を考えていく必要がある。 ①	◆日本の工業生産の課題に着目して、生産者や消費者など異なる立場から日本の工業の発展について話し合わせるようにする。 ◆これまでの日本の工業生産について学習したことをふまえながら、これからの工業生産で大切にしたいことを考えさせるようにする。	[思判表②] ノートの記事内容や発言内容から、「工業生産について学習してきたことを総合して、消費者や生産者などの立場から日本の工業の発展について考え、適切に表現しているか」を評価する。 [態度②] ノートの記事内容から、「学習したことをふり返り、これからの工業の発展のために大切なことを考えようとしているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちは、どのような情報とどのようにかかわっているのでしょうか。 (1時間)	○どのような情報をどのように得ているのか発表し合う。 ・他地域や外国のニュースはテレビやラジオ、新聞で知る。 ・天気を知りたいときはインターネットを使うことが多い。 ・趣味のことについて知りたいときは雑誌を買うことが多い。 ○情報を得る手段と情報の内容との関わりを話し合う。 ・インターネットは外でも調べられる。 ・テレビは家族で一緒に見ることができ、遠くの場所のこともすぐに知ることができる。 単元のめあて わたしたちの生活の中で、情報はどのような役わりを果たしているのでしょうか。	◆「まなび方コーナー」を活用し、比較するための視点を意識してそれぞれの特徴を整理するようにする。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「わたしたちの生活の中の情報の役割について関心を高めているか」を評価する。

目標

放送などの情報産業で働く人々について、情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、まとめることで放送などの情報産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとにして、情報の受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、放送などの情報産業の様子について理解している。	①放送などの情報産業で働く人々の情報を集め発信するまでの工夫や努力に着目して、問いを見だし、放送などの情報産業の様子について考え表現している。	①放送などの産業と情報との関わりについて予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、放送などの情報産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	②放送局などから発信される情報と自分たちの生活を関連付けて、放送などの産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことをもとに情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えたりして表現している。	②学習したことをもとに、情報の受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①テレビから伝えられる情報 P. 52～53 ニュース番組では、どのような情報が放送されているのでしょうか。 (1 時間)	○よく見るテレビ番組について発表し合う。 ・ ニュース番組の天気予報を見る。 ・ 野球やサッカーの結果を見る。 ○実際のニュース番組を一部視聴し、情報の種類や放送内容について話し合う。 ・ 全国各地の様々なできごとがその日のうちに放送されている。 ・ 外国のことも、映像や音声があるからわかりやすい。 ニュース番組では全国や世界のできごと、天気予報などの情報が、その日のうちに集められ、放送されている。 ①	◆地図帳や地球儀などを活用し、ニュース番組で取り上げられた場所に目して、放送内容を調べられるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ニュース番組の内容や特徴について理解しているか」を評価する。
	②ニュース番組をつくる現場 P. 54～55 番組をつくる放送局について話し合って学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 (1 時間)	○ニュース番組の放送について疑問に思ったことを出し合い学習問題をつくる。 ・ どのように情報を集めているのか。 ・ できごとをどのように選んでいるのか。 ・ どのように情報を伝えているのか。 学習問題 放送局で働く人々は、どのようにしてわたしたちに情報をとどけているのでしょうか。 ○学習問題についての予想を出し合い、学習計画を立てる。(調べること) ・ 現場でどのように取材して情報を集めているのか。 ・ 集めた情報をどのようにして伝えているのか。 ・ 情報を伝える人たちが気をつけていること。 ・ 番組を見る人は、どのように情報を活用するとよいか。	◆第1時で調べたニュース番組について調べたことをふり返り、疑問を出し合うようにさせる。 ◆予想を「情報収集」「情報発信」「情報の影響」に分類して板書し、学習計画に整理する。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報の集め方や伝え方に目して問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「放送局の仕事の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③ニュース番組をつくるための情報収集 P. 56～57 放送局で働く人々は、1本のニュース番組をつくるために、どのようにして情報を集めているのでしょうか。 (1 時間)	○放送局のホームページや「記者の揖斐さんの話」などから情報の集め方を調べ、働く人々の工夫や努力を話し合う。 ・ 多くの時間と人で番組はつくられている。 ・ 番組をつくるのに、細かく担当が分かれている。 ・ 取材内容が事実なのかを確認している。 ・ 人権や公平・公正さなどに配慮し、見る人が求める情報を考えて番組をつくっている。 放送局の人々は、1本のニュース番組をつくるために、全国各地から情報を集め、正確さ、人権や公平・公正さを考えつつ、見る人にわかりやすく編集してニュース番組を放送している。 ③	◆放送局で働く人々が協力して情報を伝えられていることに気づかせる。 ◆「現地やインターネットを活用して取材すること」や「情報の正確さを確認すること」に着目して、情報を集めたり選んだりする目的を考えさせるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、放送局で働く人々は、ニュース番組をつくるために様々なことを考えて情報を集めていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まづめる	④集めた情報を番組にしてとどける P. 58～59 放送局で働く人々は、情報をどのようにまとめ、ニュース番組にして放送しているのでしょうか。 (1 時間)	○「映像編集者の戸塚さんの話」「アナウンサーの上村さんの話」「ニュース番組編集長の荒井さんの話」などからニュース番組の放送のしかたについて調べ、放送局で働く人々の工夫や努力を話し合う。 ・映像の中で一番大切なところや見る人が求めているものを考えている。 ・ニュースをわかりやすく正確に伝えることを大切にしている。 ・常に、どの情報をどの順番で放送するかをその場で判断している。 放送局で働く人々は、番組を見る人が求めている情報を選ぶとともに、働く人たちが協力して原稿や映像を編集したり、内容を確認めたり、見る人が情報を使えるように工夫したりして放送している。 ④	◆編集長が「番組の進行を確認していること」「情報の順番をその場で判断していること」に着目して、情報を選んで放送していることを考えさせるようにする。 ◆QR コンテンツ「ニュース番組編集長にインタビュー」も活用して、放送局の仕事の様子をとらえさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、放送局で働く人々は、様々なことを考えて伝え方を工夫していることを理解しているか」を評価する。
	⑤情報を上手に生かす P. 60～61 テレビ放送では、どのような情報が放送され、どのようなえいきょうがあるのでしょうか。 (1 時間)	○テレビ番組の種類や「報道被害を伝える新聞記事」、「放送局で働く鈴木さんの話」などから放送された情報の活用や影響を調べ、人々と情報の関わりについて話し合う。 ・テレビのニュースがきっかけで、報道被害が起きることがある。 ・送り手である放送局によって伝える内容が変わる。 ・受け手の立場になって考えて放送している。 テレビなどの情報は、人々の行動を決めるきっかけとなったり、報道被害や社会の混乱を起こしたりすることがある。 ⑤	◆情報の送り手と受け手の二つの立場から多角的に考えられるようにする。 ◆情報の受け手がどのような影響を受けているのかを「よさ」「問題点」の視点で話し合い、情報との関わり方を考えさせるようにする。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「放送局で働く人々の工夫や努力、情報発信の影響について考え、適切に表現しているか」を評価する。
	⑥フローチャートにまとめて話し合う P. 62～63 放送局で働く人々がわたしたちに情報をとどけるまでの働きについてまとめ、話し合いましょう。 (1 時間)	○学習したことをフローチャートにまとめる。 ・情報の正確さ、人権や公平・公正さを考えつつ、見る人が求める情報となるように、工夫して情報を集めている。 ・放送を見る人が自分の生活に情報を役立てられるように工夫して放送をしている。 ・情報は人々の行動を決めるきっかけとなったり、社会の混乱を起こしたりすることがあるので、影響を考えることなど、配慮して放送することが必要。 ○情報について考えたことを話し合い、自分の考えをノートにまとめる。 ・必要な情報を得ることができるが、社会の混乱を引き起こすこともあるので、いくつかの情報を見比べて、自分で判断して情報を選んでいきたい。 放送局で働く人々は、人々が求めている情報を集め、選ぶとともに見たり聞いたりする人が情報を活用できるように正確にわかりやすく伝える工夫や努力をしている。情報には、人々の行動を決めるきっかけとなったり、報道被害や社会の混乱を起こしたりするなど大きな影響がある。 ⑥	◆第3～5時の学習で調べまとめたことをふり返り、放送局で働く人々と国民生活との関わりについてフローチャートに書き込むようにさせる。 ◆放送局で働く人々の工夫や努力、国民生活の影響をふまえながら、自分たちが情報を選ぶ上で、配慮すべきことを考えさせるようにする。	【知技②】 ノートの記述内容やフローチャートの記述内容から、「放送局から発信される情報の役割や影響について理解しているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容から、「学習したことをもとに、情報について、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことが大切であることを考えようとしているか」を評価する。

4－② 情報を生かす産業

目標

我が国の産業と情報との関わりについて、情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞、インターネットなどの各種資料で調べたりして、まとめることで産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を多角的に考え、表現することを通して、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用のしかたなどについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、産業における情報活用の現状を理解している。	①情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、問いを見いだし、産業における情報活用の現状について考え表現している。	①大量の情報や情報通信技術の活用について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。	②情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、学習したことをもとに産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について考え表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①くらしを支える産業と情報の活用 P. 66～67 くらしを支える産業での情報の生かし方について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○くらしを支える産業では、情報をどのように活用しているか話し合う。 ・電車やバスなど、人を運ぶ運輸の仕事では、ICカードなどを利用している。 ・介護の現場では、人工知能が組み込まれたロボットを活用している。 ○販売の仕事ではどのように情報を活用しているか、写真資料を参考に話し合う。 ・レジでは、電子マネーで支払いをすることもできる。 ○話し合ったことをもとに疑問に思うことを出し合い、学習問題をつくる。 ・ICカードやアプリなどから得た情報は、どのように利用されているのだろう。 ・様々な種類の商品がそろっているのは、情報の活用と関係があるのかな。	◆様々な産業において、どのように情報を活用しているか写真をもとに捉えさせる。 ◆教科書 P. 67 の写真を見ながら、買い物経験を通じて知っていることなどを発表させる。 ◆QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を視聴し、情報を活用する産業の様子に関心をもたせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報を活用するコンビニエンスストアの仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 はん売の仕事をするコンビニエンスストアでは、どのような情報を何のために活用しているのでしょうか。		
調べる	②情報を活用してはん売する P. 68～69 コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用してはん売の仕事をしているのでしょうか。 (1 時間)	○コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているか話し合い、P. 68～69の資料をもとに調べる。 ・いつどんな商品が売れたか本部に情報が送られている。 ・店では、翌日の天気や地域の行事などの情報も活用して商品を発注している。 ・ICカードで買い物をすると、性別や年齢などの情報も本部に送られる。 ○コンビニエンスストアでは、情報をどのように活用しているか考え話し合う。 ・コンビニエンスストアの情報は、本部に送られ、大量の情報になっている。 ・本部では、買った人の情報も集め、新商品の開発に生かしている。	◆コンビニエンスストアと本部の関係に着目して調べさせる。 ◆会員カードや電子マネーを申し込むときは、個人情報などがどのように守られ、利用されるのかを確かめることが大切であることを知らせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの商品の販売に生かす情報活用のしかたについて理解しているか」を評価する。
		販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、商品の販売に情報を生かしたり、大量の情報を活用して商品の開発を行ったりしている。②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	③情報を生かして ものを運ぶ P. 70～71 はん売の仕事では、商品を運ぶために情報をどのように活用しているのでしょうか。 (1 時間)	○コンビニエンスストアに商品が運ばれるときにどのように情報が活用されているか話し合い、資料 1、2 をもとに調べる。 ・店からタブレットを使って本部や工場に情報が送られている。 ・本部ではトラックの位置がわかり、災害の時は本部から指示が出せるようになっている。 ○人々の願いに応えるための情報を生かした工夫を資料 3、4 などから調べる。 ・お年寄りや子育て中の人などは、商品をお店から届けてもらうこともできる。 ○販売の仕事では、商品を運ぶために情報をどのように活用しているかを考え、話し合う。 ・店から情報が本部や工場に送られ、商品が届けられている。 ・安心・安全なくらしができるように、情報を活用して人々のつながりをつくっている。 販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、商品の配送にも情報が生かされ、それは地域の人々の安心・安全を確保する取り組みにもつながっている。 ③	◆GPS を利用してトラックの位置情報を把握することで、災害時にも備えていることに着目させる。 ◆資料 4 は、買い物に行きづらい方々がインターネット等を利用し商品を送り届けてもらうしくみである。人々の願いに応えるための情報活用として捉えさせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの商品を運ぶ際の情報活用のしかたについて理解しているか」を評価する。
	④情報通信技術の活用によるサービスの広がり P. 72～73 はん売の仕事では、情報通信技術を活用し、どのようにサービスを広げているのでしょうか。 (1 時間)	○コンビニエンスストアでは、情報通信技術がどのように活用されているか話し合い、資料 1 などから調べる。 ・コンサートやスポーツの試合のチケットなどが買える。 ・市役所などで発行する証明書をとることができるものがある。 ○販売の仕事では、情報通信技術を活用し、どのようにサービスを広げているのか考え、話し合う。 ・店の商品を買うだけでなく、情報通信機器を使って、いろいろなサービスを受けられる。 ・情報通信技術を活用して、他の産業ともつながることで、わたしたちの生活は便利になっている。 販売の仕事をするコンビニエンスストアでは、情報通信技術を活用し、他の産業ともつながりながらサービスの幅を広げている。 ④	◆情報通信技術を活用したサービスを受けた経験を話し合うとともに、コピー機でどのようなことができるか調べさせる。 ◆資料 4 の年表をもとに、情報通信技術の活用によってコンビニエンスストアがサービスを広げていること、わたしたちの生活も便利になっていることを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、コンビニエンスストアの情報通信技術の活用によるサービスの広がりについて理解しているか」を評価する。
	⑤関係図にまとめる P. 74～75 はん売の仕事をするコンビニエンスストアでの情報活用についてまとめましょう。 (1 時間)	○学習をふり振り返り、コンビニエンスストアがどのように情報を活用しているか話し合う。 ・店で売れた商品や買ったお客さんの情報などを集めて、新しい商品を開発していた。 ・位置情報を活用して、トラックの位置がいつでもわかるしくみになっていた。 ・情報通信技術を活用して、他の産業ともつながってサービスを広げている。 ○コンビニエンスストアの情報活用について、関係図にまとめ、発表し合う。	◆各自のノートをもとに、どのように情報を活用していたか話し合わせる。 ◆「集めた大量の情報の活用」と「情報通信技術の活用」という面があることを考えさせたい。 ◆関係図は、P. 74～75 を参考にワークシート形式にし	[知技②] ノートの記述内容や関係図の内容から、「調べたことをまとめ、大量の情報や情報通信技術の活用は、販売業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		- 集めた情報を販売の仕事に生かす工夫と、情報通信技術を生かして他の産業とつながり、サービスを広げる工夫があった。 - 情報を活用することで販売の仕事が発展し、わたしたちの生活も便利になっている。 大量の情報や情報通信技術などの活用は、我が国の様々な産業を発展させ、国民生活を向上させている。⑤	てもよい。テンプレートとして、QRコンテンツ「まとめるワークシート」を使ってもよい。	【思判表②】 ノートの記述内容や関係図の内容から、「情報を活用した産業の変化や発展と人々の生活の利便性の向上を関連付けて、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を産業や国民の立場から多角的に考え、適切に表現しているか」を評価する。

4－③ 情報を生かすわたしたち

2 時間／下 P. 80～83

目標

情報活用のあり方について、情報の種類、情報の活用のしかたなどに着目して、各種の資料で調べ、まとめることで情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたを捉え、情報が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報の種類、情報の活用のしかたなどについて、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたを理解している。	①情報の使い方や情報活用に関連して起きている問題などに着目して、問いを見いだし、情報化の進展が国民生活に果たす役割や情報の適切な活用のしかたについて考え表現している。	①情報活用のあり方について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解している。	②学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、表現している。	②学習したことをもとに、情報化の進展に伴う国民生活におけるよさや課題について考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①あふれる情報 P. 80 日ごろの情報の生かし方について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1/2 時間)	○パソコンやスマートフォンの利用経験を話し合う。 ・メールを送ったり、電車の時刻を調べたりした。 ・インターネットを利用して調べ学習をした。 ○インターネットでできることや普及率を調べ、どのようなことが問題になるか話し合い、学習問題をつくる。 ・ルールやマナーを知らないで使うと、トラブルに巻き込まれることがある。	◆くらしの中で、情報がどのように活用されているか着目させる。 ◆普及率の増加とともに、様々な問題が起きていることに気づかせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報の使い方や情報活用に関連して起きている問題などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「情報活用のあり方について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 わたしたちは、情報とどのようにしてかかわっていけばよいのでしょうか。		
調べる	①情報活用のルールやマナー P. 81 情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいのでしょうか。 (1/2 時間)	○資料1～3のインターネットを利用した犯罪件数のグラフなどをもとに、その原因を話し合う。 ・パソコンや携帯電話が普及したことと関係があるのではないかな。 ・インターネットは、顔を合わせなくても情報のやり取りができるからではないかな。 ○インターネットで起こる問題を調べ、情報を上手に活用するには、どのようなルールやマナーを心がければよいか考え話し合う。 〈問題の例〉 ・SNSで知った間違った情報を広めてしまった。 ・SNSに書き込んだ個人情報が流出した。 〈ルールやマナーの例〉 ・インターネットの情報の中には、有害なものや正しくないものもあることを理解して利用する。 ・インターネット上に流れた情報は止めることができない。 インターネットはたくさんの情報を送ったり得たりすることができるが、問題が起きることもあり、ルールやマナーを守った活用が大切である。 ①-2	◆インターネットの普及による家庭や社会への影響に着目させる。 ◆SNSの利用で起こる問題の例をもとに具体的に調べさせる。 ◆受信・発信の際に守るべきルールやマナーを考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、情報化の進展による課題や、情報活用のルールやマナーを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	②インターネットを活用した学習 P. 82 情報を学習に生かすには、どのようにすればよいのでしょうか。 (1/2 時間)	○インターネットを利用した調べ学習で困ったり、迷ったりした経験を話し合う。 ・たくさんの情報があつてどれを選べばよいかわかったことがある。 ・集めた情報をそのまま使ってよいのかわからなかった。 ○情報を集めるときや読み取るときに大切なことを考え、話し合う。 ・正しい情報かどうかを見極め、情報を選んで受け取る。 ・情報をそのまま書き写さず、自分の言葉に置き換えてまとめる。 ・発表の時は、参考にした資料や本の名前、作者、発行元、発行年などを書いておく。 学校や家庭でのオンライン学習の場面でもインターネットは効果を発揮するが、そのためには正しい使い方をする必要があり、メディアリテラシーを身に付けることが大切である。 ②-1	◆社会科やそのほかの教科の学習でインターネットを利用した際に困ったり迷ったりした経験を発表させる。 ◆メディアリテラシーを身に付けることが大切であることを理解させる。 ◆「まなび方コーナー」を参照するほか、本の奥付(書名、作者名、発行元、発行年)を実際に見せるとよい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、情報の適切な活用のかたについて理解しているか」を評価する。
まとめる	②情報の活用について話し合う P. 83 情報をどのように活用したらよいか、まとめましょう。 (1/2 時間)	○情報の活用について学んできたことをふり返り、話し合う。 ・情報がくらしや産業に役立っている。 ・インターネットの情報は便利に活用できるが、すべて正しいとは限らない。 ・インターネットによるいじめや犯罪が問題になっている。 ○情報をどのように活用し、生かしていったらよいか考え、話し合う。 ・インターネットを正しく使うために、メディアリテラシーを身に付けることが大切。 ・情報の活用には、ルールやマナーが大切。 家庭や社会では日常的に情報が活用され、インターネットの活用は、便利さをもたらす反面、いじめや犯罪などの問題も起きており、メディアリテラシーを身に付け、ルールやマナーを守って活用することが大切である。 ②-2	◆第4単元全体を俯瞰し、学んできたことを発表させる。 ◆情報化された社会で生きるという視点から、大切だと思うことを話し合い、ノートにまとめさせる。 ◆QRコンテンツ「ネットリテラシークイズ」も活用し、情報の受け手、送り手それぞれに大切なことを捉えさせる。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめ、情報化の進展により国民生活の利便性が向上する一方、適切に情報を見極める必要があることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発言内容から、「学習してきたことを総合して、情報活用のあり方について考え、適切に表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
単元全体のいかす	①情報の役わり P. 84～85 わたしたちの生活における情報の役わりを見直し、意見文を書きましょう。 (1 時間)	○これまでの学習をもとに、自分たちの情報との関わり方をふり返り、情報が自分たちの生活にどのような影響を与えているかを話し合う。 ・テレビからの情報で、生活が豊かになっている。 ・コンビニエンスストアでは、情報が様々に活用され、わたしたちのくらしを便利にしてくれている。 ・メディアリテラシーや情報モラルを身に付けることが大切。 ○これから情報を活用していくうえで大切だと思うことを整理し、「わたしたちの生活と情報」について意見文を書く。 ・いろいろな産業で情報が活用され、わたしたちの生活に情報が欠かせない。 ・必要な情報はきちんと確かめて使う。 ・これからもオンラインを活用する機会が増える中で、正しく情報を活用していく。 いろいろな産業で情報が活用され、生活が便利になっている一方、必要な情報を選ぶことや、正しい情報モラルを知り、適切に情報を活用するように気をつけていくことが大切である。	◆各自のノートをもとに、どのように情報を活用していたか話し合わせる。	【態度②】 発言や意見文の内容から、「学習したことをもとに、情報化の進展に伴う国民生活におけるよさや課題について考えようとしているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちの生活は、どのような自然環境に囲まれているのでしょうか。 (1時間)	○わたしたちの生活と自然環境との関わりについて話し合う。 ・国土の学習で、地形や気候の特色を学習した。 ・世界自然遺産に一度行ってみたい。日本には、美しい自然環境が残されているところが多くある。 ○P.86～87の資料を見ながら、豊かな自然環境や環境が悪化する問題について考える。 ・写真資料の場所は、日本の様々なところにある。 ・国土の学習では、各地で自然環境を生かしたくらしをしていた。 ・台風や地震などの自然災害も多数起きている。 ・木を植えているのはどうしてだろう。 ・空がきれいになったのはどうしてだろう。 ・自然環境とどのように関わっていくのがよいのだろう。 ----- 単元のめあて 国土の自然環境は、わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのでしょうか。	◆国土の学習を思い出させるとともに、自分たちの生活と自然環境との関わりについて考えさせる。 ◆地図帳等も活用して国土について学習したことをふり返らせる。 ◆身近な地域で自然環境保護の取り組みをしている事例などを出し、関心をもたせたい。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「わたしたちの生活と自然環境との関わりについて関心を高めているか」を評価する。

目標

我が国の国土の自然条件と国民生活について災害の種類や発生の位置や時間、防災対策などに着目して、地図や各種資料で調べ、まとめることで国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現することを通して、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然災害の状況を理解している。	①災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、問いを見いだし、国土の自然災害の状況について考え、表現している。	①我が国の自然災害の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究、解決しようとしている。
②調べたことを表や文にまとめ、自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。	②我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え、表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①自然災害が多い日本の国土 P. 88～89 日本で起きる自然災害について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○巻末の日本各地で起きた自然災害の年表や教科書の写真資料などを読み取り、過去の発生状況からわかったことや考えたことを整理し、学習問題をつくる。 ・日本の各地で災害が起きている。 ・地震や津波はどのようなところで起きているのかな。 ・高い土地や低い土地、あたたかい土地など、日本の様々な地形や気候の地域について学んだから、自然災害も地形や気候と関係があると思う。 ・自然災害に対して、国や都道府県では、どのような取り組みを行っているのかな。	◆日本のどこで、どのような自然災害が起きているのかを巻末資料（災害年表）を見ながら捉えられるようにする。 ◆自然災害の発生を地形や気候との関連で考えさせる。 ◆自然災害に対して、国や都道府県では、どのような防災の取り組みを行っているかという相互の協力の視点からも考えるように助言する。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自然災害の多さや防災対策などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 ノートの記述内容から、「国土の自然災害の状況や防災対策について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 自然災害は、地形や気候とどのようなかかわりがあり、国や都道府県では、くらしを守るためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。		
調べる	②地震災害への取り組み P. 90～91 地震はどのような場所で起こり、くらしを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○日本で地震が起こるわけを、本文や資料 2、3 から読み取り、話し合う。 ・複数のプレートの出合う場所にある。 ・内陸に断層が多くある。 ○大地震に備えて国や都道府県では、どのような対策や備えをしているか、読み取り話し合う。 ・気象庁では、大きな揺れが予想される直前に緊急地震速報を発表し、自分の身を守れるようにしている。 ・国の会議では、地震の前触れや起きたときの対策を話し合っている。 日本は複数のプレートの出合う場所にあり、内陸にも断層が多く地震が多い。地震の前触れについて話し合い、実際に地震が起きたときの対応も国は検討を行っている。②	◆地震が起きるしくみについて資料から考えさせる。 ◆教科書の資料の中から、大きな地震に備えて、「だれが」「どのような」取り組みを進めているのかに着目しながら対策について調べるように助言する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地震災害に対して国や都道府県が防災や減災の考えのもと対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。
	③津波災害への取り組み P. 92～93 津波災害はどのようなときに起こり、くらしを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○日本で津波が起こるわけを本文や資料 3、4 から読み取り、話し合う。 ・大きな地震が発生した後に起こる。 ・プレートが反発して海水が大きく動くことによって動く。 ○大津波からの被害を減らすために、国や都道府県ではどのような対策をしているのか調べ、話し合う。 ・防潮堤や津波避難タワーを建設している。 ・被害が大きくなならないようなまちづくりをしている。 ・約170年前に、津波から村の人を救った濱口梧陵さんがいた。 津波は、大きな地震が発生した後に起こる。国や都道府県では、津波災害に備え、防潮堤や津波避難タワーを建設するなど、災害が起きた際に、被害が大きくなならないようなまちづくりをしている。③	◆津波が起きるしくみについて資料から考えさせる。 ◆津波災害が繰り返して発生していることに着目させ、その対策の必要性を意識させて調べさせるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、津波災害に対して国や都道府県が防災や減災の考えのもと対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	④風水害への取り組み P. 94～95 風水害はどのようなときに起こり、くらしを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○日本で風水害の被害が大きくなるわけを、資料から読み取り、話し合う。 ・短時間に急な大雨が降ることがあると、水が川からあふれたり、土砂が流れてきたりしてしまう。 ○風水害からの被害を減らすために、各都道府県ではどのような取り組みをしているのか、資料からわかったことを話し合う。 ・砂防ダム、地下放水路などをつくって、災害を防いでいる。 ・ハザードマップを災害時に役立ててもらおう。 日本は、つゆがあり台風がよく来る場所にあるため、洪水や土砂災害などに備える必要がある。そのため、国や都道府県では、砂防ダム、放水路、ハザードマップなどの多様な対策を行っている。 ④	◆砂防ダムや、放水路など、被害を減らすための取り組みや対策の意味をきちんとおさえるようにする。 ◆ハザードマップについても、その意味をきちんと話し合っ、自分がそれらを使うことを想定させるようにしたい。 ◆QR コンテンツ「国土交通省の人にインタビュー」を視聴し、防災や減災の取り組みについて捉えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、風水害に対して国や都道府県が防災や減災の考えのもと対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。
	⑤火山災害や雪害への取り組み P. 96～97 火山災害や雪害はどのような場所で起こり、くらしを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○資料から、火山や大雪の被害について調べる。 ・火山灰や噴石などの被害がある。 ・雪崩や、雪下ろし中の事故がある。 ○火山や大雪への取り組みについて調べ、話し合う。 ・火山灰などから身を守るための、避難壕をつくっている。 ・大雪に備えて、雪崩を防ぐ柵などを道路の脇につくっている。 日本には多くの火山があり、現在も活動している。また、日本海側に大雪の降る場所が集中している。国や都道府県では、災害に応じた対策をして、少しでも被害を減らす、減災の取り組みをしている。 ⑤	◆火山の位置については、地図帳などでも調べさせ、自分たちの住む市区町村との位置関係も捉えさせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、風水害に対して国や都道府県が防災や減災の考えのもと対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。
	⑥表に整理する P. 98～99 自然災害からくらしを守るための取り組みについてまとめましょう。 (1 時間)	○これまでの学習をふり返り、自然災害の種類別に、表に整理する。 ・津波は海沿いで発生している。対策として、国や県が防潮堤をつくっている。 ・地震は、プレートが関係している。国や都道府県が協力して、耐震工事を進めたり、会議をしたりして、被害を減らすことができるように考えている。 ・日本は、つゆや台風の影響などにより風水害の被害が大きくなりがちなため、砂防ダムや放水路、ハザードマップなどの多様な対策を国や都道府県が行っている。 ・噴火に備え、気象庁では常に火山を観測している。また、大雪に備え雪崩を防ぐ柵などを道路脇に設置している。 ○表をもとに、①地形や気候との関係や、②防災や減災対策の共通点をさがす。 ①について ・山地が多く、四方を海に囲まれた日本では、地震、津波、噴火が発生することが多い。 ・夏から秋にかけて台風が多く、全国各地で風水害が発生しやすい。	◆「ことば」を生かしながら、調べてわかったことをノートにまとめるようにする。 ◆各自が作成した表を見合い、それぞれの災害の対策や取り組みについて共有することで、対策や取り組みの様子を理解できるようにする。	[知技②] 表やノートの記述内容から、「調べたことをまとめ、自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや、国や県などが自然災害に対する取り組みや対策を進めていることについて理解しているか」を評価する。 [思判表②] 表やノートの記述内容や発言内容から、「我が国で発生する自然災害と国土の自然条件を関連付けて、国や都道府県の防災・減災に向けた対策や事業の役割を考

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		・ 季節風の影響で、冬の降雪量が多く、雪害が起こる地域もある。 ②について ・ どの自然災害についても、防災対策だけでなく、発生した際の被害を大きくしないための対策（減災）に国や都道府県が取り組んでいる。 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生している。自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や都道府県などが様々な対策や事業を進めている。 ⑥ ○学習をふり返り、考えたことを話し合う。 ・ 自然災害は、いつ起きるかわからないので、日頃から、備えをしていた方がよい。		え、適切に表現しているか」を評価する。

目標

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、森林資源の分布や働きなどに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで国土の環境を捉え、森林資源が果たす役割を考え、表現することを通して、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①森林資源の分布や働きなどについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の環境を理解している。	①森林資源の分布や働きなどに着目して、問いを見いだし、国土の環境について考え表現している。	①森林資源の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。	②我が国の国土における森林の分布と国民の生活舞台である国土の保全を関連付けて、森林資源が果たす役割を考えたり、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。	②学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本の森林 P. 100～101 日本の森林は、どのように広がっているのでしょうか。 (1 時間)	○森林の様子の写真やグラフ、日本の土地利用図などの資料から森林の広がりについて話し合う。 ・国土面積の約 3 分の 2 は森林である。 ・世界の中でも森林の占める割合は高い。 ・森林は全国各地に広がっている。 森林は、日本の国土面積の 3 分の 2 を占めている。森林は全国に広がっていて、日本は世界でも森林の割合が多い国である。 ①	◆「わたしたちの国土」での学習を想起させ、国土に定める森林の面積の割合を確認する。 ◆日本の土地利用図から、森林の分布に着目して、森林は全国各地に広がっていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、国土における森林の広がりについて理解しているか」を評価する。
	②森林とのかかわり P. 102～103 森林とわたしたちのくらしのかかわりを話し合っって学習問題をつくり、学習計画を立てましょう。 (1 時間)	○天然林と人工林の写真を比較し、気づいたことを話し合い、学習問題をつくる。 ・森林には天然林と人工林がある。 ・天然林と人工林で、働きに違いはあるのだろうか。 ・森林はどのような働きをしているのだろうか。 学習問題 森林にはどのような働きがあり、わたしたちの生活とどのようなかかわりがあるのでしょうか。 ○予想を出し合い、学習計画を立てる。 <調べること> ・天然林の広がる地域の様子や天然林の働き ・人工林の広がる地域の様子や人工林の働き ・森林の働きや森林資源の利用のしかた	◆天然林と人工林の写真を比較することを通して、それぞれの働きを考えさせる。 ◆庄内平野の米づくりの学習に関連する防砂林など、既習事項で関連することがあれば想起させ、森林の働きを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「天然林・人工林の様子に着目して問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「森林の働きや自分たちの生活との関わりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③貴重な天然林・白神山地 P. 104～105 天然林には、どのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○白神山地と天然林の働きについて調べ、わかったことを発表する。 ・青森県から秋田県にかけて広がる、ぶなの天然林が広がる山地である。 ・世界遺産に登録されている。 ・美しい自然を求めてたくさんの人がやって来る。 ・生き物のすみかとなっている。 ・赤石川の水源地となっている。 ・天然林の働きを保つためには、森林を保全していくことが大切である。 天然林には、人々の安らぎの場や生き物のすみかをつくりだす働きがあり、その働きを保つためには、森林を保全していくことが大切である。 ③	◆天然林は自然にできたものではあるが、その働きを守っていくために、保護活動を行っている人々がいることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、天然林の働きやその保護に従事している人々の工夫と努力について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④木材をつくりだす森林 P. 106～107 人工林には、どのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○白神山地の近くの秋田杉の人工林とその働きについて調べ、わかったことを発表する。 ・人工林は木材を生み出す場所である。 ・植えた木が木材になるまでには、長い年月がかかる。 ・手入れをすることで、よい木材を生み出すことができる。 ○林業が抱える課題について、話し合う。 ・林業で働く人々の数は減少している。 ・木材の輸入量は1960年代と比べて増加している。 ・天然林の資源量は増えていないが、人工林は年々増加している。 人工林には、木材を生み出す働きがあり、林業で働く人々は長い年月をかけて木を育てている。また、林業で働く人々は山の環境を守りながら仕事をしている。 ④	◆林業で働く人々は木を植えて切るだけでなく、長い年月をかけて手入れをしていることに気づかせる。 ◆三つのグラフから読み取ったことを関連付けることで、林業が抱える課題を捉えられるようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、人工林の働きとその育成に従事している人々の工夫と努力について理解しているか」を評価する。
	⑤さまざまな森林の働き P. 108～109 森林には、どのような働きがあり、森林資源はどのように利用されているのでしょうか。 (1 時間)	○森林の働きについて話し合う。 ・生き物のすみか ・空気をきれいにする ・水をたくわえる ・きれいな水を生み出す ・災害を防ぐ ・木材を生み出す ・手入れの行き届かない森林が増えている。 ○森林資源の利用について調べる。 ・伝統工芸品に使われている木材がある。 ・国立競技場には、全国で生産された木材が使われている。 ・間伐材を使った製品もある。 ・森林ボランティアは森林の働きや森林資源を守る活動をしている。 森林には、水をたくわえたり、空気をきれいにしたり、土砂崩れを防いだりする働きがある。また、森林資源は、木製品として生かされている。 ⑤	◆手入れが行き届かず荒れた森林は、その働きを失ってしまうことに気づかせる。 ◆森林の働きを維持するためには、森林資源を保護・活用していくことが大切であることに気づかせる。 ◆QR コンテンツ「森林ボランティアの人にインタビュー」も活用し、森林資源を次の世代に伝えていくために活動している人の思いを捉えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、様々な森林の働きや森林資源の利用について理解しているか」を評価する。
ま と め る	⑥図にまとめる P. 110～111 森林の働きについてまとめ、環境を守ることについて考えてみましょう。 (1 時間)	○森林の働きを集合図にまとめる。 ・天然林には、生き物のすみかや人々の安らぎの場をつくり出す働きがある。 ・人工林には、木材を生み出す働きがある。 ・国土を保全し、わたしたちの生活を守るという共通する働きがある。 森林は、その育成や保護に従事している人々の工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしている。 ⑥ ○国土を保全する豊かな森林を守っていくために、自分たちにできることを考える。 ・苗木を植える森林ボランティアの活動に参加することができる。 ・森林教室に参加することもできる。 ・木を使った製品を積極的に利用することが人工林を豊かにすることにつながる。	◆集合図にまとめることで天然林と人工林の働きの相違点や共通点について考えさせる。 ◆学習したことの中から自分たちにできることを考え、選択・判断させる。	[知技②] ノートの記述内容や発表の内容から、「調べたことをまとめ、森林は、その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] ノートの記述内容や発表の内容から、「学習したことをもとに、森林資源を守るために

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
				自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりしているか」を評価する。 【態度②】 ノートの記述内容や発表の内容から、「学習したことをもとに、森林資源を守るために自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。

5－③ 環境を守るわたしたち

5 時間／下 P. 112～121

目標

我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について、公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、まとめることで公害防止の取り組みを捉え、その働きを考え、表現することを通して、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、公害防止の取り組みを理解している。	①公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して、問いを見いだし、国土の環境について考え表現している。	①公害防止の取り組みについて、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。	②公害防止の取り組みと環境改善や人々の健康な生活を関連付けて、公害防止の取り組みの働きを考えたり、学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。	②学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①豊かな水資源をもつ京都市 P. 112～113 鴨川の変化について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○鴨川と京都市民との関わりを調べる。 ・ 鴨川の豊かな水が市民の生活やゆばづくりなどの産業を支えている。 ・ 現在は、いこいの場として親しまれている。 ○現在と過去の鴨川の様子を比べて、疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・ なぜ汚れていたのか。 ・ どのようにしてきれいにしたのか。 ・ だれがきれいにしたのか。 学習問題 鴨川は、だれがどのようにしてきれいな川にしているのでしょうか。	◆鴨川は市民にとって多様な価値があることに気づかせる。 ◆「汚れた理由」や1970 年以降に改善されていることに着目して考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「公害の発生時期や経過、人々の協力や努力などに着目して問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習計画を立てる。 ・ 鴨川が汚れていた原因 ・ 汚れていた鴨川をきれいにした取り組み ・ 美しい鴨川を守り続けるための取り組み		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「鴨川の公害防止の取り組みについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②生活が便利になる一方で P. 114～115 なぜ鴨川はよごれていたのでしょうか。 (1 時間)	○当時の新聞記事や「市役所の大原さんの話」、「四大公害病」などから、当時の社会の様子を調べ、汚れの原因について話し合う。 ・ 生活排水や工場排水によって汚れた。 ・ 産業の発展で生活が便利になる一方、環境を考えない人が多かった。 高度経済成長によって日本の産業が発展するなか、国民生活は便利になったが環境に対する国民の意識が低く公害が発生した。鴨川でも住民の意識が低く、川が汚れてしまった。 ②	◆生活のしかたや生産のしかた、人々の環境の意識などが原因になっていること、それらは当時の日本の傾向であったことに着目して考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、鴨川における公害発生の原因について理解しているか」を評価する。
	③美しい鴨川を取りもどすために P. 116～117 京都市では、鴨川をきれいにするために、どのような取り組みが行われたのでしょうか。 (1 時間)	○年表や「市役所の大原さんの話」、「友禅あらい職人の澁谷さんの話」などから、環境をよくするための取り組みについて調べ、話し合う。 ・ 国は法律を整え、市は、下水道を整えたり工場排水を規制したりした。 ・ 工場の人たちは国や市のルールに協力し、工場を移転したり排水で汚したりしないように工夫した。 全国的に公害が広がったころ国は法律などを定めた。京都市は、下水道の整備や工場排水を規制し、川を汚さないために工場などの協力を進めた。 ③	◆国や市などの行政によってしくみが整えられ、工場などがそれらに対してできることを協力していることに着目して考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、鴨川の環境改善の取り組みについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	④取りもどした環境を守るために P. 118～119 きれいな川になった鴨川を守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○「鴨川を美しくする会」の杉江さんの話や「京都府鴨川条例」などから現在の取り組みを調べ、環境を維持する様子について話し合う。 ・市民が川に親しむイベントを行うことで、環境を守る気持ちをもつようにしている。 ・市民の活動によって府が条例をつくり、環境が守られるようにしている。 きれいな川になった鴨川を守るために、住民たちが川に親しむイベントを行ったり清掃活動を行ったりして、人々の環境への意識を高める取り組みをしている。 ④	◆きれいな川になった川で遊ぶ人がゴミを出すようになったことに着目して、新たな課題を把握させる。 ◆市民自身が環境を守る取り組みをすることで、環境への意識を高めようとしていることに着目して考えさせる。 ◆QR コンテンツ「鴨川を美しくする会」の人にインタビュー」を参照し、長年鴨川の美化に携わってきた市民の思いを感じさせたい。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習をふり返り、さらに調べるべきことを考え、鴨川における新たな課題や市民団体の取り組みについて調べる見通しをもっているか」を評価する。
まとめる	⑤立場でまとめて話し合う P. 120～121 鴨川の環境を守るための取り組みについてまとめ、話し合いましょう。 (1 時間)	○学習したことをふり返って、鴨川の環境を守る取り組みをそれぞれの立場でまとめる。 ・府・市は、下水道を整備したり工場排水の規制を行ったりするほか、条例を制定した。 ・工場は、川を汚さない工夫をして、府や市の取り組みに協力した。 ・市民は、人々が環境を守る意識を高められる工夫を行っている。 ○自分はだれの活動に協力できるか話し合う。 ・市民主催のイベントに協力できる。 ・家庭では、生活排水の汚れを減らすことで府や市に協力できる。 ○小単元をふり返る。 ・産業の発展や生活の向上の一方で、人々の行動で環境を悪化させてしまうことがある。一人一人が環境への意識をもって取り組むことが大切だ。 鴨川では、これまで市や工場、地域の人々などの様々な努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られてきており、環境保全につながる継続的な取り組みをすることや、健康な生活を守ることが大切である。 ⑤	◆環境を守るために、それぞれの立場の人が、どのような役割を果たしているのかに着目して考えさせる。 ◆自分の活動は、どのような役割を果たせそうなのかを意識させる。 ◆「環境が悪化した原因」「環境を改善し、維持するために努力する人の姿」に着目してふり返るようにさせる。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめ、行政や工場、市民の努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られたことや、健康な生活を守ることの大切さを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
単元全体のいかす	①ことなる立場から考えよう P. 124～125 自然を守りながら人が生活をしていくためには、どのようなことを大切にしなければならないのでしょうか。 (1 時間)	○川をめぐる問題について、異なる二つの立場の意見をそれぞれ「よさ」「問題点」に分けて表にまとめ、自分の意見を書く。 〈Aさんたちの意見〉 よさ ・川のまわりをコンクリートで整備すると、洪水になりにくい。災害の心配が減る。 ・親水公園を川のまわりに建設して、みんなのいこいの場にすることができる。 問題点 ・川の環境が変わってしまう。 〈Bさんたちの意見〉 よさ ・洪水の際の避難計画を考えることで、川の自然の姿をそのまま守ることができる。 問題点 ・自然のままだと、これからも洪水の可能性はある。 ○AさんたちとBさんたちの意見の違いから、自然に対する二つの考え方があることを整理し、自然を守りながら人々が生活していくためにはどのようなことが大切か、自分の考えを書く。 自然を守りながら人々が生活していくために、どのようなことを大切にしなければならないか、異なる立場の人々の意見もふまえながら考えていくことが必要である。	◆第5単元全体をふり返りながら、二つの立場の意見の「問題点」「よさ」について考えさせる。 ◆正解があるわけではないが、これまでの学習をふまえて根拠を明確にして自分の考えを書くように指導する。	【態度②】 表やノートの記事内容から、「学習したことをもとに、国土の環境保全について、自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 表やノートの記事内容から、「学習したことをもとに、国土の環境保全について自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして、適切に表現しているか」を評価する。